

# 8TH ASIA PACIFIC DEAF GAMES 2015 TAOYUAN

第8回アジア太平洋ろう者競技大会 (台湾・桃園)

2015年10月3日～10月11日

## 本部報告書

一般財団法人全日本ろうあ連盟



**JAPAN SPORT**  
COUNCIL  
日本スポーツ振興センター

競技力向上事業

# 大会の様子



開会式



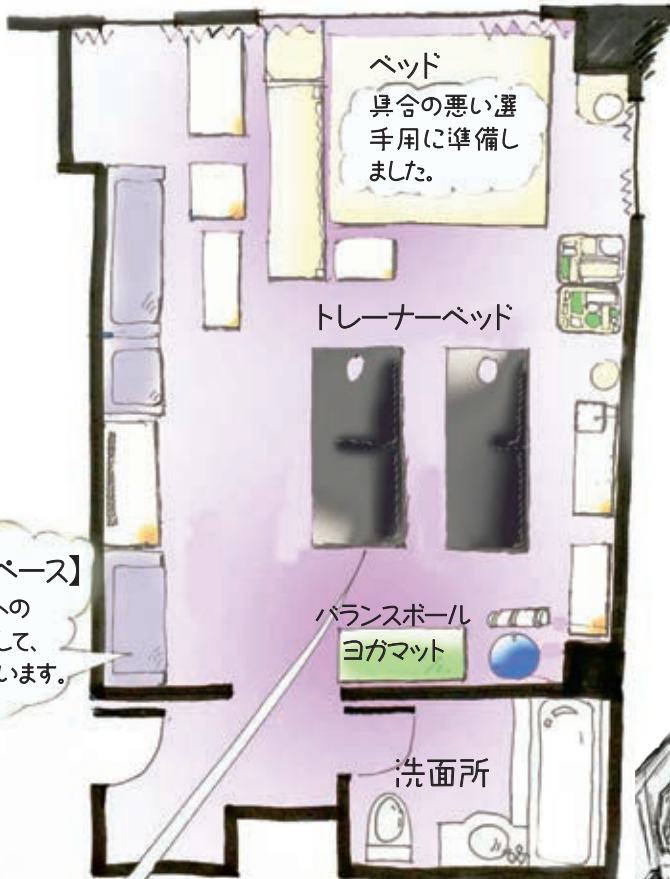
閉会式



## 第8回アジア太平洋ろう者競技大会



選手団の健康管理、体調維持のため、  
医師 2 名、看護師 1 名、トレーナー 2 名が帯同しました。  
選手との意思疎通は、本部に配置された手話通訳士 2 名  
が担当しました。



【待合スペース】  
問診票への  
記入などをして、  
待ってもらいます。

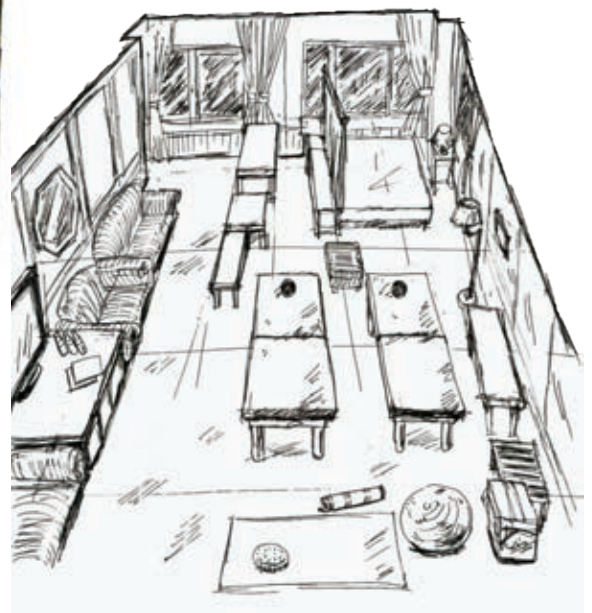
【ケアスペース】  
医師の診察とトレーナーの  
ケア(ストレッチ、テーピング、  
治療)を行うスペース。

洗面所には、うがい用  
イソジン消毒液も用意され、  
スタッフの風邪の予防に  
一役買いました。

AED(自動体外式除細動器)も  
持ち込みましたが、  
幸い使用することはありませんでした。

医薬品の入ったスーツケース(2 個)  
台湾でも国内と同じように診察と治療が  
できるように、最大限必要な医療機器、  
医療品が持ち込まれました。

右は、  
超音波と  
低周波での治療が  
可能なコンビネーション治療器

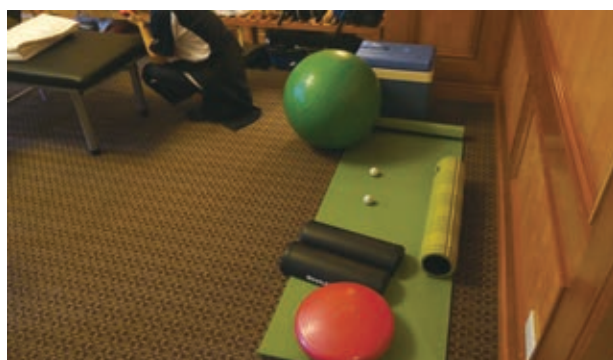


# 本部メディカルルーム

メディカルルーム



医薬品



トレーニング用品



医薬品の準備



メディカルスタッフミーティング



## 本部スタッフ



トレーナーによる針治療



試合会場でのケア



ドクターによる診察



試合会場でのケア



トレーナーによるケア

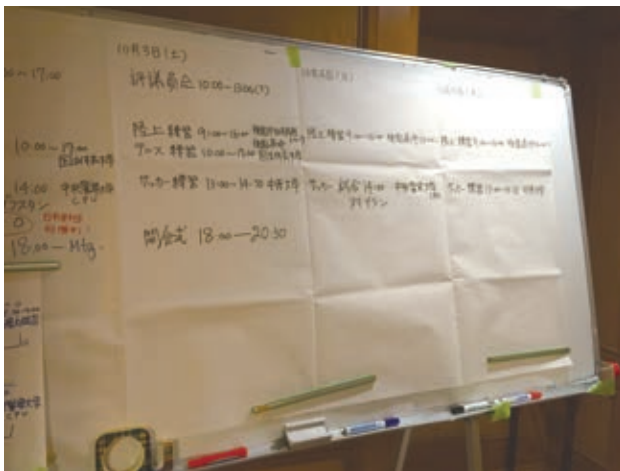


テーピング処置

# 本部スタッフ



本部スタッフ



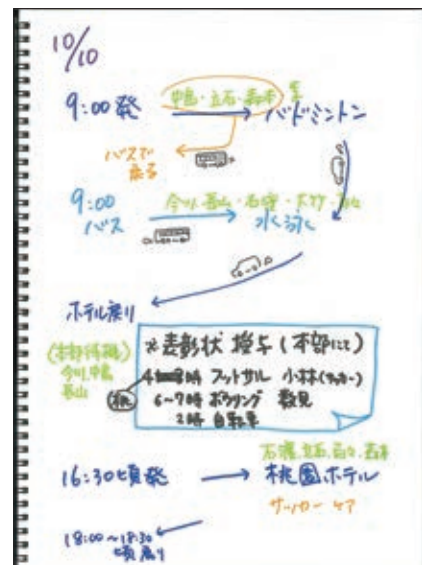
本部・競技スケジュール



ホテルロビーの案内



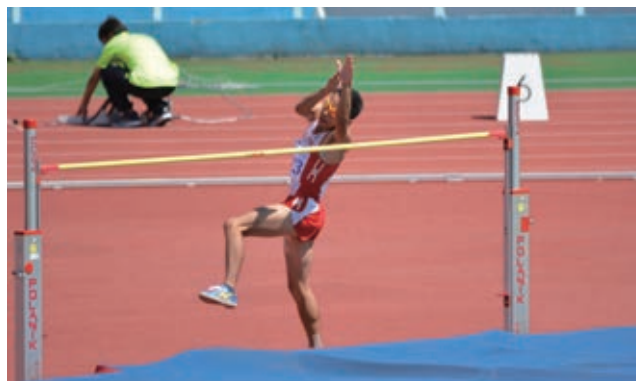
本部部屋



本部スタッフの行動スケジュール



# 選手の活躍



陸上



バドミントン



ボウリング



バスケットボール



# 選手の活躍



自転車



サッカー



フットサル



## 選手の活躍



水泳



卓球



テニス

# 目 次

## 1. 大会概要

○現地本部名簿および参加競技団体一覧	1
--------------------	---

## 2. 成績一覧

○国別成績ランキング	3
○日本選手メダリスト一覧	4
○競技別成績	6

## 3. 報告

### ○本部報告

1、背景	19
2、第8回アジア太平洋ろう者競技大会（桃園）への目標と体制	20
3、医科学委員会（仮称）が掲げた“理想的なメディカル体制”に向けて、 今大会を通じて感じた課題等	20
4、今大会における連絡体制等についての課題	21
5、本部メディカルルームについての課題	22
6、医薬品について	22
7、担当した業務内容について	22
8、今後の派遣で改善が必要な点・今後の課題等	25
9、今後に向けて	27

### ○競技団体報告

1、陸上	28
2、バドミントン	30
3、バスケットボール	31
4、ボウリング	32
5、自転車	32
6、サッカー・フットサル	34
7、柔道	35
8、水泳	35
9、卓球	37
10、テニス	38

## 4. 資料

○聴力検査	41
○健康調査	42



## 第8回アジア太平洋ろう者競技大会 大会概要

- 1 大会名称 第8回アジア太平洋ろう者競技大会
- 2 開催期間 2015年10月3日（土）開会式  
～2015年10月11日（日）閉会式【9日間】  
※渡航日程 2015年10月1日（木）～10月12日（月）  
※各競技団体は試合予定に応じ、それぞれ渡航予定。
- 3 開催国・都市 台湾・桃園
- 4 運営主体 アジア太平洋ろう者スポーツ連合  
(Asia Pacific Deaf Sports Confederation)  
2015桃園アジア太平洋ろう者競技大会組織委員会  
(中華台北ろう者スポーツ協会)
- 5 参加国・地域数 22カ国・地域／ APDSC加盟国数 30カ国・地域
- 6 参加人数 1,171人（2015年10月3日現在）
- 7 実施競技 陸上、バスケットボール（男子のみ）、バドミントン、ボウリング、  
自転車（男子のみ）、サッカー（男子のみ）、フットサル（男子のみ）、  
柔道（男子のみ）、卓球、テコンドー、テニス、水泳  
<12競技>  
・アンダーラインは日本選手が参加の競技（11競技）
- 8 日本選手団 選手125名、競技スタッフ52名、本部スタッフ15名  
総計192名（最終エントリー数）

## 本部スタッフ名簿および競技団体別参加者数一覧

### ＜本部スタッフ名簿＞

NO.	役職	氏名	性別	備考
1	団長	大竹 浩司	男	(一財) 全日本ろうあ連盟 スポーツ委員会
2	副団長	太田 陽介	男	(一財) 全日本ろうあ連盟 スポーツ委員会
3	総務	大杉 豊	男	(一財) 全日本ろうあ連盟 スポーツ委員会
4	医師	立石 智彦	男	健聴者
5		宇土 美於	女	健聴者
6		今川 竜二	男	神奈川県聴覚障害者連盟
7	看護師	百々 幸子	女	健聴者
8	アスレティック トレーナー	中島 幸則	男	健聴者
9		石渡 あゆ未	女	健聴者
10	手話通訳士	森本 行雄	男	健聴者
11		長山 綾	女	健聴者
12	輸送	石澤 慧	男	健聴者
13	事務局	岡安 澄子	女	(一財) 全日本ろうあ連盟 職員
14		後藤 啓二	男	(一財) 全日本ろうあ連盟 職員
15	現地語通訳	李 文賓	男	台湾在住
				合計 15名

### ＜競技団体 選手・スタッフ数＞

NO.	競技名	男子	女子	スタッフ	備考
1	陸上	23	7	7	
2	バドミントン	4	3	2	
3	バスケットボール	8	—	7	
4	ボウリング	6	6	4	
5	自転車	5	—	3	
6	サッカー	18	—	6	
7	フットサル	12	—	3	
8	柔道	5	—	2	
9	水泳	6	6	8	
10	卓球	4	4	6	
11	テニス	4	4	4	
		95	30	52	合計 177名

### ＜日本人 TD APDSC より招集＞

NO.	競技名	男子	女子	備考
1	陸上	1	0	
2	フットサル	1	0	
				合計 2名



# 成績一覽





## 国別成績ランキング

順位	国名	金	銀	銅	4位	5位	6位	7位	8位	計
1	 台湾	27	17	21	12	11	8	2	3	101
2	 日本	21	26	23	7	4	6	8	5	100
3	 中国	18	14	11	5	1	0	0	0	49
4	 韓国	6	13	12	10	8	5	6	2	62
5	 イラン	6	6	10	10	8	7	5	4	56
6	 インドネシア	3	2	0	0	1	0	1	1	8
7	 オーストラリア	2	2	2	1	1	0	0	0	8
8	 カザフスタン	1	3	3	7	7	6	6	4	37
9	 インド	1	0	3	4	4	2	3	1	18
10	 マカオ	1	0	1	2	0	0	0	2	6
11	 イラク	0	2	0	2	0	1	0	0	5
12	 マレーシア	0	1	4	0	3	2	1	0	11
13	 ウズベキスタン	0	0	3	0	0	0	0	0	3
14	 ニュージーランド	0	0	2	1	0	3	0	0	6
15	 モンゴル	0	0	2	1	0	0	0	0	3
16	 香港	0	0	1	1	1	2	2	0	7
17	 アラブ首長国連邦	0	0	0	1	0	1	0	0	2
18	 サウジアラビア	0	0	0	1	0	0	1	2	4
19	 シンガポール	0	0	0	0	0	0	1	0	1
20	 東ティモール	0	0	0	0	0	0	0	1	1
21	 フィリピン	0	0	0	0	0	0	0	1	1
22	 キルギス	0	0	0	0	0	0	0	0	0
23	 イエメン	0	0	0	0	0	0	0	0	0

大会公式ホームページより引用。

但し、一部ノンメダル競技が含まれて表示されており、日本のメダル数は、正しくは金21個、銀26個、銅22個。

## 日本選手メダリスト一覧

競 技	選 手 名	種 目	メダル
陸上	佐々木琢磨	男子 100m	金メダル
	水野史生	男子 200m	銀メダル
		男子 400m	銅メダル
	森光裕矢	男子 1500m	金メダル
	高田裕士	男子 400mハードル	銀メダル
	前島博之	男子 高跳び	銀メダル
	中村晃大	男子 走り幅跳び	金メダル
	水野史生 佐々木琢磨 羽柴大典 中村開知	男子 4×100mリレー	銅メダル
	羽柴大典 水野史生 佐々木琢磨 岡部祐介	男子 4×400mリレー	金メダル
	門脇翠	女子 100m	金メダル
		女子 200m	金メダル
		土屋文香	女子 800m
	バドミントン	柿内康平	男子 シングルス
木林歩美 鷹尾すみれ		女子 ダブルス	銀メダル
小堀知史 鷹尾すみれ		ミックスダブルス	銅メダル
柿内康平 小堀知史 沼倉昌明 太田歩 木林歩美 鷹尾すみれ 吉田美香		団体戦	銀メダル
ボウリング	中村洋三 東博雄 上野勝巳 新垣匡史 馬留久志	男子団体	銅メダル
	仲西麻美 村野美幸 栗山美和子 米倉幸 馬留由香	女子団体	銅メダル
自転車	早瀬憲太郎	個人タイムトライアル	銅メダル
		個人ロードレース	銀メダル
		ポイントレース	金メダル
	川野健太	ポイントレース	銅メダル
サッカー	松元卓巳 千葉駿介 細見尚史 江島由高 松本 弘 河野 翔 桐生聖明 竹内裕樹 古島啓太 中島大介 渡邊亮平 吉野勇樹 綿貫俊基 塩田知弘 設楽武秀 原口凌輔 仲井健人 毛塚丈博	男子団体	銀メダル
柔道	吉良暁生	男子 60kg以下級	銀メダル
	佐藤正樹	男子 60-66kg級	金メダル
	蒲生和麻	男子 66-73kg級	銀メダル
水泳	茨隆太郎	男子 自由形50m	金メダル
		男子 バタフライ50m	金メダル
	上田雄二	男子 バタフライ50m	銅メダル
	金持義和	男子 自由形200m	銀メダル
		男子 背泳ぎ100m	金メダル
		男子 背泳ぎ200m	金メダル
	津田悠太	男子 自由形400m	銅メダル
		男子 自由形1500m	銀メダル
	藤原慧	男子 自由形50m	銀メダル
		男子 自由形200m	金メダル
		男子 自由形400m	金メダル
		男子 自由形1500m	金メダル
		男子 平泳ぎ50m	銀メダル
	今村可奈	女子 自由形100m	銅メダル
		女子 自由形200m	銀メダル
		女子 自由形400m	銅メダル
		女子 自由形800m	銅メダル
女子 背泳ぎ50m		銅メダル	

	競 技	選 手 名	種 目	メダル
45	水泳	河原あみ	女子 自由形200m	銅メダル
46		久保 南	女子 背泳ぎ50m	銀メダル
47			女子 平泳ぎ50m	金メダル
48			女子 平泳ぎ100m	金メダル
49			女子 平泳ぎ200m	金メダル
50			女子 自由形400m	銀メダル
51		齋藤京香	女子 自由形800m	銀メダル
52			女子 個人メドレー 200m	銀メダル
53		藤川彩夏	女子 背泳ぎ100m	銀メダル
54			女子 バタフライ50m	金メダル
55			女子 バタフライ100m	金メダル
56			女子 個人メドレー 200m	銅メダル
57			北島琳菜 藤川彩夏 今村可奈 齋藤京香	女子 自由形メドレーリレー 4×100m
58		今村可奈 河原あみ 藤川彩夏 齋藤京香	女子 自由形メドレーリレー 4×200m	銀メダル
59		今村可奈 久保 南 藤川彩夏 齋藤京香	女子 メドレーリレー 4×100m	銀メダル
60	卓球	椋田愛梨 大室萌花	女子ダブルス	銅メダル
61		有馬欽生 井藤博和 伊藤優希 大室達也	男子団体	銅メダル
62		川崎瑞恵 椋田愛梨 大室萌花 高岡里吏	女子団体	銀メダル
63	テニス	梶下怜紀	男子シングルス	金メダル
64		親松直人	男子シングルス	銀メダル
65		鈴木裕将	男子シングルス	銅メダル
66		松下哲也	男子シングルス	銅メダル
67		村山奈留美 豊田恵子	女子ダブルス	銅メダル
68		親松直人 村山奈留美	ミックスダブルス	銀メダル
69		梶下怜紀 山口華恵	ミックスダブルス	銅メダル



## 競技別成績

### 【陸 上】

○男子

種 目	選手名	成 績	組	順 位
100m 予選 10/4 9:30 ~	佐々木琢磨	11" 39 (+0.3)	2組	1位
	三枝 浩基	DNF	1組	—
	中村 開知	11" 67 (+1.4)	3組	3位
100m 決勝 10/4 14:35	佐々木琢磨	11" 06 (+1.6)	—	1位
	三枝 浩基	—	—	—
	中村 開知	11" 73 (+1.6)	—	7位
200m 予選 10/5 14:35 ~	三枝 浩基	DQ	2組	—
	水野 史生	23" 20 (+0.2)	1組	2位
200m 決勝 10/6 10:35	三枝 浩基	—	—	—
	水野 史生	23" 04 (-0.5)	—	2位
400m 予選 10/4 11:10 ~	長内 智	52" 29	1組	1位
	岡部 祐介	52" 95	2組	4位
	水野 史生	51" 71	3組	2位
400m 決勝 10/5 10:25	長内 智	75" 48	—	7位
	岡部 祐介	53" 36	—	6位
	水野 史生	51" 75	—	3位
800m 予選 10/5 15:10 ~	沖田 耐芽	2'06" 69	1組	4位
	高田 裕士	DNF	2組	—
800m 決勝 10/6 11:00	沖田 耐芽	2'07" 53	—	6位
	高田 裕士	—	—	—
1500m 決勝 10/4 16:20	森光 裕矢	4'12" 56	—	1位
	水沼 貴大	4'24" 55	—	7位
	岩附 秀和	4'33" 40	—	8位
★110mH 決勝 10/5 14:00 ~	竹花康太郎	19" 92 (-2.2)	—	2位
400mH 決勝 10/6 9:30	高田 裕士	57" 49	—	2位
走高跳 決勝 10/4 10:10	前島 博之	1m96	—	2位 (GR)
走幅跳 決勝 10/6 10:00	中村 晃大	6m71 (-1.4)	—	1位
	前島 博之	6m54 (+1.0)	—	4位
	白石 進	6m34 (-0.7)	—	5位
★三段跳 決勝 10/4 15:00	中村 晃大	13m74 (-1.1)	—	1位
	野町 穂高	12m86 (+1.1)	—	7位
	白石 進	13m10 (-0.7)	—	6位
★砲丸投 決勝 10/4 10:00	佐藤 優也	10m73	—	6位
	宮下 佳也	10m70	—	7位
★円盤投 決勝 10/5 10:00	小関 雄太	33m17	—	4位
	竹市 義文	30m57	—	7位
	関 涼太郎	31m91	—	6位
★槍投げ 決勝 10/6 9:50	小関 雄太	51m00	—	2位
	前島 浩二	49m21	—	3位
4 × 100m リレー 決勝 10/4 17:00	水野 史生	43" 95	1走	3位
	佐々木琢磨		2走	
	羽柴 大典		3走	
	中村 開知		4走	
	三枝 浩基		—	
	岡部 祐介		—	
4 × 400m リレー 決勝 10/6 14:10	羽柴 大典	3'28" 21	1走	1位
	水野 史生		2走	
	佐々木琢磨		3走	
	岡部 祐介		4走	
	長内 智		—	
	三枝 浩基		—	

○女子

種目	選手名	成績	組	順位
100m 決勝 10/4 14:30 ~	小松 彩香	—	—	—
	門脇 翠	13" 66 (+1.8)	—	1位
200m 予選 10/5 14:20 ~	小松 彩香	—	2組	—
	門脇 翠	28" 74 (-0.5)	1組	1位
200m 決勝 10/6 10:30 ~	小松 彩香	—	—	—
	門脇 翠	28" 39 (-0.8)	—	1位
800m 決勝 10/6 10:50	土屋 文香	2'30.11	—	2位
100mH 決勝 参加国1国のみのため、競技実施なし	田井小百合	—	—	—
走幅跳 決勝 10/5 9:50	佐藤麻梨乃	4m14 (+1.2)	—	6位
★槍投げ 決勝 10/4 14:00	高橋 渚	41m28	—	2位 (GR)
	山中 優貴	37m32	—	3位
★4×100m リレー 決勝 10/4 16:50	門脇 翠	53" 77	1走	1位 (GR)
	土屋 文香		2走	
	佐藤麻梨乃		3走	
	田井小百合		4走	
	小松 彩香		—	

※ ★ノンメダル種目

【バドミントン】

◆団体戦

選手名	出場数	ラウンド	勝敗	対戦相手 (選手名・国)	マッチ	セットポイント					成績
						1	2	3	4	5	
日本チーム	7	リーグ	勝	韓国	3-2	0-2	2-1	2-0	0-2	2-0	銀
			勝	香港	5-0	2-0	2-0	2-0	2-0		
		決勝	負	台湾	1-3	0-2	0-2	2-0	0-2		

◆男子シングルス

選手名	出場数	ラウンド	勝敗	対戦相手 (選手名・国)		マッチ	成績
太田 歩	34	トーナメント	負	Woo Jisoo	韓国	0-2	初戦敗退
柿内 康平			勝	Azamat Amanzhol	カザフスタン	2-0	銅
			勝	Eddy Susanto	インドネシア	2-1	
			勝	Mahesh Singh	インド	2-0	
			負	Shin Kyungduk	韓国	0-2	
小堀 知史			勝	Masood Mohsenpour	イラン	2-1	ベスト16
			負	Shin Kyungduk	韓国	0-2	
沼倉 昌明			勝	Tang Kaifeng	中国	不戦勝	ベスト8
			勝	Lino Crisostomo	東ティモール	2-0	
			負	Francis Tan	マレーシア	0-2	

◆女子シングルス

選手名	出場数	ラウンド	勝敗	対戦相手 (選手名・国)		マッチ	成績	
木林 歩美	24	トーナメント	勝	Wang Mengxing	中国	不戦勝	ベスト8	
			勝	Gauravi Wamburkar	インド	2-0		
			負	Jung-Yu Fan	台湾	0-2		
鷹尾すみれ			負	Chia Ling	マレーシア	1-2		初戦敗退
吉田 美香			負	Yu Eunkyung	韓国	0-2		初戦敗退

◆男子ダブルス

選手名	出場数	ラウンド	勝敗	対戦相手 (選手名・国)		マッチ	成績
太田・柿内	16	トーナメント	勝	Cheng-I Huang&Shin-Rong Yin	台湾	2-0	ベスト8
			負	Cheang Hock&Francis Tan	マレーシア	0-2	
小堀・沼倉			勝	Chaw Ming&Kok Fang	マレーシア	2-0	ベスト8
			負	Abhinav Sharma&Mahesh Singh	インド	1-2	

## ◆女子ダブルス

選手名	出場数	ラウンド	勝敗	対戦相手 (選手名・国)		マッチ	成績
木林・鷹尾	10	トーナメント	勝	Kim Yunhui&Yu Eunkyung	韓国	2-1	銀
			勝	Li-Chi Hsieh&Wen-Hsuan Tu	台湾	2-0	
			負	Jung-Yu Fan&Yan-Ru Shen	台湾	0-2	

## ◆混合ダブルス

選手名	出場数	ラウンド	勝敗	対戦相手 (選手名・国)		マッチ	成績
太田・吉田	24	トーナメント	勝	Shin-Rong Yin&Li-Chi Hsieh	台湾	2-0	ベスト8
			勝	Shin Kyungduk&kim Yunhui	韓国	2-0	
			負	Francis Tan&Wei Ying	マレーシア	1-2	
小堀・鷹尾			勝	Abhinav Sharma&Gauravi Wamburkar	インド	2-0	銅
			勝	Cheang Hock&Chia Ling	マレーシア	2-0	
			負	Woo Jisoo&Yu Eunkyung	韓国	0-2	
沼倉・木林			勝	Lu Guangyao&Jiang Jialei	中国	不戦勝	ベスト8
			勝	Jung Sunho&Lee Soyeong	韓国	不戦勝	
			負	Chung-I Chen&Jung-Yu Fan	台湾	0-2	

## ◆【団体戦】

順位	国名
1	台湾
2	日本
3	韓国
4	マレーシア

## 【バスケットボール 男子】

プログラム	対戦国	勝敗	スコア
リーグ A	台湾	負	68-93
	香港	勝	89-44
	フィリピン	勝	95-82
準決勝	オーストラリア	負	43-60
3位決定戦	中国	負	69-73

順位	国名
1位	オーストラリア
2位	台湾
3位	中国
4位	日本
5位	フィリピン
6位	イラン
7位	香港
8位	インド



## 【ボウリング】

### ◆男子シングルス

順位	選手名	国名	G 1	G 2	G 3	G 4	G 5	G 6	Total
1	HSIEH SHENG FU	台湾	256	259	258	225	178	193	1369
2	KI Seungmoon	韓国	255	208	214	139	167	268	1251
3	LIN CHENG EN	台湾	228	181	202	233	213	192	1249
⋮									
13	新垣 匡史	日本	136	211	211	205	186	156	1105
14	上野 勝巳	日本	139	192	216	203	192	159	1101
18	東 博雄	日本	232	190	190	133	160	169	1074
23	馬留 久志	日本	195	150	178	166	222	147	1058
25	中村 洋三	日本	178	177	157	173	160	199	1044
33	細川 賢治	日本	149	163	179	180	167	177	1015

### ◆女子シングルス

順位	選手名	国名	G 1	G 2	G 3	G 4	G 5	G 6	Total
1	KIM Jieun	韓国	159	180	211	194	210	187	1141
2	HUANG SHU MIN	台湾	191	187	169	181	203	206	1137
3	PARK Sunok	韓国	193	224	179	184	165	179	1124
⋮									
7	米倉 幸	日本	187	192	181	155	167	191	1073
13	馬留 由香	日本	139	215	158	202	167	140	1021
14	村野 美幸	日本	166	163	165	203	140	167	1004
16	栗山美和子	日本	144	128	182	185	173	168	980
18	仲西 麻美	日本	132	123	166	177	212	151	961
21	島袋 恵	日本	187	176	114	113	147	150	887

### ◆男子ダブルス

順位	選手名	国名	Total
1	HSIEH SHENG FU / LIN CHENG EN	台湾	2524
2	HAM Jonghoon / SEO Youngchun	韓国	2396
3	JO Youngbum / HAN Youngwoo	韓国	2368
⋮			
8	新垣 匡史 / 中村 洋三	日本	2214
12	東 博雄 / 馬留 久志	日本	2146
16	細川 賢治 / 上野 勝巳	日本	2072

### ◆女子ダブルス

順位	選手名	国名	Total
1	CHEN WEN NI / HUANG SHU MIN	台湾	2203
2	HSUEH HSIU CHEN / HU CHENG MEI	台湾	2185
3	CHANG YAO CHIEN / LIN YA CHIN	台湾	2184
⋮			
7	米倉 幸 / 仲西 麻美	日本	2113
8	村野 美幸 / 馬留 由香	日本	1963
10	栗山美和子 / 島袋 恵	日本	1938

## ◆男子トリオ

順位	選手名	国名	Total
1	HSIEH SHENG FU LIN CHENG EN CHIU CHING LING	台湾	3681
2	JO Youngbum SEO Youngchun HAM Jonghoon	韓国	3588
3	YEO Youngwook KI Seungmoon HAN Youngwoo	韓国	3500
4	東 博雄 中村 洋三 新垣 匡史	日本	3407
7	上野 勝巳 細川 賢治 馬留 久志	日本	3245

## ◆女子トリオ

順位	選手名	国名	Total
1	CHANG YAO CHIEN CHEN WEN NI HUANG SHU MIN	台湾	3335
2	KIM Jieun KIM Taisoon PARK Sunok	韓国	3225
3	HU CHENG MEI LIN YA CHIN HSUEH HSIU CHEN	台湾	3148
4	村野 美幸 馬留 由香 米倉 幸	日本	3114
6	栗山美和子 島袋 恵 仲西 麻美	日本	2766

## ◆男子団体戦

順位	選手名	国名	Total
1	YEO Youngwook JO Youngbum SEO Youngchun KI Seungmoon HAM Jonghoon	韓国	5870
2	CHENG CHUNG CHIN CHIU CHING LING HOU YAO CHI LIN CHENG EN HSIEH SHENG FU	台湾	5782
3	馬留 久志 新垣 匡史 上野 勝巳 東 博雄 中村 洋三	日本	5584

## ◆女子団体戦

順位	選手名	国名	Total
1	CHANG YAO CHIEN LIN YA CHIN HU CHENG MEI HSUEH HSIU CHEN CHEN WEN NI HUANG SHU MIN	台湾	5436
2	KIM Jieun KIM Taisoon CHEON Wonryeong CHOI Seonkyeong LEE Misook PARK Sunok	韓国	5352
3	栗山 美和子 村野 美幸 馬留 由香 米倉 幸 仲西 麻美	日本	4982

## ◆男子マスターズ

順位	選手名	国名	Total
1	YEO Youngwook	韓国	3600
2	CHIU CHING LING	台湾	3444
3	HSIEH SHENG FU	台湾	3399
9	新垣 匡史	日本	3172
13	上野 勝巳	日本	3047

## ◆女子マスターズ

順位	選手名	国名	Total
1	CHANG YAO CHIEN	台湾	3408
2	HUANG SHU MIN	台湾	3398
3	PARK Sunok	韓国	3243
9	米倉 幸	日本	3037
11	村野 美幸	日本	2915
14	栗山美和子	日本	2744

## 【自転車男子】

### ◆スプリント (1,000m) 10月4日 (日) 9:00 ~ 13:00

選手名	国名	順位
Liang Qichao	中国	1
早瀬憲太郎	日本	2
SUN YI FENG	台湾	3
得利 雄介	日本	4
川野 健太	日本	5
CHUANG YUNG CHIH	台湾	6
野崎 勝利	日本	7
長濱 圭吾	日本	8

※参加国が5か国に満たないため、ノンメダル競技

### ◆個人タイムトライアル (35km) 10月5日 (月) 9:00 ~ 13:00

選手名	国名	タイム	順位
CHENG HUAI	台湾	53'51'81	1
Reece Emerson Van Beek	オーストラリア	54'52'51	2
早瀬憲太郎	日本	55'00'09	3
Ezzatollah Mazaheri	イラン	55'00'74	4
HUANG YU MIN	台湾	55'14'17	5
Ali Kamkar Mazraeh	イラン	55'32'05	6
SUN YI FENG	台湾	56'21'50	7
Iman Kaviani Moghadam Boroujerdi	イラン	56'38'54	8
Wang Bin	中国	56'47'07	9
Liang Qichao	中国	57'23'24	10
Yousef Yousefzadeh Vakilabad	イラン	58'11'46	11
長濱 圭吾	日本	58'22'32	12
川野 健太	日本	58'25'58	13
野崎 勝利	日本	60'00'13	14
得利 雄介	日本	60'05'17	15
CHUANG YUNG CHIH	台湾	64'03'20	16
CHUI HOK SAM	香港	67'13'43	17

### ◆個人ロードレース (100km) 10月7日 (水) 9:00 ~ 13:00

選手名	国名	タイム	順位
CHENG HUAI	台湾	2'45'46"34	1
早瀬憲太郎	日本	2'45'46"44	2
Wang Bin	中国	2'45'46"48	3
SUN YI FENG	台湾	2'45'47"05	4
Ezzatollah Mazaheri	イラン	2'45'47"79	5
CHUANG YUNG CHIH	台湾	2'45'48"09	6
HUANG YU MIN	台湾	2'45'48"25	7
野崎 勝利	日本	2'45'48"44	8
Iman Kaviani Moghadam Boroujerdi	イラン	2'45'49"74	9
長濱 圭吾	日本	2'45'51"07	10
Reece Emerson Van Beek	オーストラリア	2'45'54"27	11
Liang Qichao	中国	2'45'55"13	12
川野 健太	日本	2'45'57"99	13
Ali Kamkar Mazraeh	イラン	2'46'10"79	14
得利 雄介	日本	2'46'29"08	15
Yousef Yousefzadeh Vakilabad	イラン	2'47'48"20	16
CHUI HOK SAM	香港	2'49'50"79	17



◆個人ポイントレース (50km) 10月9日 (水) 9:00 ~ 13:00

選手名	国名		順位
早瀬憲太郎	日本	90	1
CHENG HUAI	台湾	56	2
川野 健太	日本	46	3
Wang Bin	中国	24	4
Reece Emerson Van Beek	オーストラリア	23	5
CHUANG YUNG CHIH	台湾	23	6
野崎 勝利	日本	8	7
長濱 圭吾	日本	4	8
SUN YI FENG	台湾	1	9
Yousef Yousefzadeh Vakilabad	イラン	0	10
Ezzatollah Mazaheri	イラン	-20	11
Liang Qichao	中国	0	DNF
HUANG YU MIN	台湾	0	DNF
得利 雄介	日本	0	DNF
Iman Kaviani Moghadam Boroujerdi	イラン	0	DNF
Ali Kamkar Mazraeh	イラン	0	DNS

### 【フットサル 男子】

プログラム	対戦国	勝敗	スコア
Round 1	アラブ首長国連邦	勝	14-3
	イラン	負	2-7
Round 2	アラブ首長国連邦	勝	12-0
	イラン	負	2-8

順位	国名
1位	イラン
2位	日本
3位	アラブ首長国連邦

※参加国が5か国に満たないため、ノンメダル競技

### 【サッカー 男子】

(A グループ) イラン、日本、オーストラリア、カザフスタン

(B グループ) サウジアラビア、韓国、マレーシア

プログラム	対戦国	勝敗	スコア	勝敗
A グループ予選	カザフスタン	勝	5-0	2勝1敗
	イラン	負	0-4	
	オーストラリア	勝	2-0	
準決勝	韓国	勝	3-0	銀
決勝戦	イラン	負	1-1 (PK3:4)	

順位	国名
1位	イラン
2位	日本
3位	韓国
4位	サウジアラビア
5位	マレーシア
6位	オーストラリア
7位	カザフスタン

## 【柔道】

◆男子60kg以下 吉良 暁生 2勝1敗 → 2位 銀メダル

	リーグ1回戦	リーグ2回戦	リーグ3回戦
相手名	S HIN Kyungjae	LAW WAI LAM	Ali Salahshour Gol Khani
相手国	韓国	香港	イラン
勝敗	勝	勝	負
内容	優勢勝ち	一本勝ち	一本負け
決まり技		背負い投げ	裏投げ

◆男子 60-66kg 佐藤 正樹 3勝0敗 → 1位 金メダル

	リーグ1回戦	リーグ2回戦	リーグ3回戦
相手名	SINGH Manjeet	JUNG Jongwook	Mohammad Asiabi Shafiei
相手国	インド	韓国	イラン
勝敗	不戦勝	勝	勝
内容	-	反則勝ち	有効勝ち
決まり技	-	相手の反則技	大内刈り

◆男子 66-73kg 蒲生 和麻 1勝1敗 → 2位 銀メダル

	リーグ1回戦	リーグ2回戦	
相手名	Ali Dehghan Ghourdarband	HWANG Hyeon	
相手国	イラン	韓国	
勝敗	勝	負	
内容	優勢	一本	
決まり技	指導2	袖釣り込み	

◆男子 73-81kg 木ノ下 寿 0勝3敗

	リーグ1回戦	リーグ2回戦	リーグ3回戦
相手名	Navaanjamts Bayanmunkh	KIM Minseok	Hossein Allahkarimi
相手国	モンゴル	韓国	イラン
勝敗	負	負	負
内容	反則負け	一本負け	一本負け
決まり技	指導4つ	大外刈	抑え込み

## 【水泳】

◆男子

選手名	種目	ラウンド	記録	順位	成績
茨隆太郎	男子 50 m自由形	予選	00'24"85	1/13	決勝進出
		決勝	00'23"36	1/8	金メダル
	男子 50 m背泳ぎ	決勝	00'27"99	2/8	2位 (参加国数の規則により、メダル無し)
	男子 50 mバタフライ	予選	00'26"42	1/10	決勝進出
		決勝	00'25"95	1/8	金メダル
	男子 200 m個人メドレー	決勝	02'10"57	2/8	2位 (参加国数の規則により、メダル無し)
男子 400 m個人メドレー	決勝	04'46"92	2/6	2位 (参加国数の規則により、メダル無し)	
上田雄二	男子 100 m自由形	予選	00'59"49	3/13	決勝進出
		決勝	00'59"79	5/8	5位入賞
	男子 50 mバタフライ	予選	00'28"29	3/10	決勝進出
		決勝	00'27"97	3/8	銅メダル
	男子 100 mバタフライ	予選	01'03"58	4/10	決勝進出
		決勝	01'05"31	4/6	4位入賞
男子 200 mバタフライ	決勝	02'39"05	4/5	4位 (参加国数の規則により、入賞無し)	

選手名	種目	ラウンド	記録	順位	成績
金持義和	男子 200 m自由形	予選	02'09"83	3/13	決勝進出
		決勝	01'59"28	2/8	銀メダル
	男子 50 m背泳ぎ	決勝	00'27"57	1/8	1位(参加国数の規則により、メダル無し)
	男子 100 m背泳ぎ	予選	01'07"04	1/11	決勝進出
		決勝	01'00"65	1/8	金メダル
	男子 200 m背泳ぎ	決勝	02'15"44	1/7	金メダル
男子 200 m個人メドレー	決勝	02'10"52	1/8	1位(参加国数の規則により、メダル無し)	
津田悠太	男子 400 m自由形	決勝	04'28"41	3/12	銅メダル(タイム決勝)
	男子 1500 m自由形	決勝	17'28"42	2/9	銀メダル(タイム決勝)
	男子 400 m個人メドレー	決勝	05'03"28	3/6	全体で3位とったが、1国につき上位2名までとなり、順位・入賞なし
藤原慧	男子 50 m自由形	予選	00'25"01	2/13	決勝進出
		決勝	00'23"83	2/8	銀メダル
	男子 200 m自由形	予選	02'00"82	1/13	決勝進出
		決勝	01'53"49	1/8	金メダル(アジア新)
	男子 400 m自由形	決勝	04'01"21	1/12	金メダル(アジア新)
	男子 1500 m自由形	決勝	15'55"89	1/9	金メダル(800M途中計時、世界新)
	男子 50 m平泳ぎ	予選	00'31"93	2/11	決勝進出
		決勝	00'31"11	2/8	銀メダル
男子 200 mバタフライ	決勝	02'06"57	1/5	1位(日本新)(参加国数の規則により、メダル無し)	
男子 400 m個人メドレー	決勝	04'38"93	1/6	1位(参加国数の規則により、メダル無し)	
中川裕介	男子 50 m自由形	予選	00'28"00	10/13	10位
	男子 50 m平泳ぎ	予選	00'33"50	6/11	決勝進出
		決勝	00'33"68	5/8	5位入賞
	男子 100 m平泳ぎ	予選	01'14"30	5/11	決勝進出
		決勝	01'13"14	6/8	6位入賞
	男子 200 m平泳ぎ	予選	02'45"36	6/11	決勝進出
決勝		02'39"33	5/8	5位入賞	
茨隆太郎 上田雄二 金持義和 藤原慧	男子 400 m自由形メドレーリレー	決勝	03'38"48	1/4	1位(アジア新)(参加国数の規則により、メダル無し)
茨隆太郎 金持義和 津田悠太 藤原慧	男子 800 m自由形メドレーリレー	決勝	08'00"87	1/4	1位(アジア新)(参加国数の規則により、メダル無し)
茨隆太郎 金持義和 藤原慧 中川祐介	男子 400 mメドレーリレー	決勝	04'01"01	1/4	1位(日本新)(参加国数の規則により、メダル無し)

#### ◆女子

選手名	種目	ラウンド	記録	順位	成績
今村可奈	女子 50 m自由形	予選	00'30"31	6/14	決勝進出
		決勝	00'30"31	7/8	7位入賞
	女子 100 m自由形	決勝	01'04"57	3/8	銅メダル
	女子 200 m自由形	決勝	02'18"58	2/6	銀メダル
	女子 400 m自由形	決勝	04'54"51	3/7	銅メダル
	女子 800 m自由形	決勝	10'13"54	3/6	銅メダル
	女子 50 m背泳ぎ	決勝	00'35"09	3/6	銅メダル
女子 100 m背泳ぎ	決勝	01'25"45	6/8	6位入賞	
河原あみ	女子 50 m自由形	予選	00'32"21	11/14	決勝進出ならず
	女子 100 m自由形	決勝	01'07"73	6/8	全体で6位とったが、1国につき上位2名までとなり、順位・入賞なし
	女子 200 m自由形	決勝	02'20"55	3/6	銅メダル
	女子 400 m自由形	決勝	04'59"35	4/7	全体で4位とったが、1国につき上位2名までとなり、順位・入賞なし
女子 800 m自由形	決勝	10'30"87	4/6	全体で4位とったが、1国につき上位2名までとなり、順位・入賞なし	



選手名	種目	ラウンド	記録	順位	成績
久保南	女子 50 m背泳ぎ	決勝	00'34"33	2/6	銀メダル
	女子 50 m平泳ぎ	決勝	00'35"93	1/4	金メダル
	女子 100 m平泳ぎ	決勝	01'16"60	1/5	金メダル (日本新)
	女子 200 m平泳ぎ	決勝	02'48"89	1/4	金メダル (日本新)
	女子 200 m個人メドレー	決勝	02'40"55	4/8	全体で4位とったが、1国につき上位2名までとなっており、順位・入賞なし
齋藤京香	女子 400 m自由形	決勝	04'49"32	2/7	銀メダル
	女子 800 m自由形	決勝	10'00"87	2/6	銀メダル
	女子 200 m個人メドレー	決勝	02'35"91	2/8	銀メダル
藤川彩夏	女子 100 m背泳ぎ	決勝	01'13"31	2/8	銀メダル
	女子 50 mバタフライ	決勝	00'30"48	1/6	金メダル
	女子 100 mバタフライ	決勝	01'06"50	1/4	金メダル
	女子 200 m個人メドレー	決勝	02'38"26	3/8	銅メダル
北島琳菜	女子 50 m自由形	予選	00'30"60	10/14	決勝進出ならず
	女子 100 m自由形	決勝	01'05"39	4/8	4位入賞
	女子 200 m自由形	決勝	02'23"69	5/6	全体で5位とったが、1国につき上位2名までとなっており、順位なし
	女子 50 mバタフライ	決勝	00'33"78	4/6	4位入賞
北島琳菜 藤川彩夏	女子 400 m自由形メドレーリレー	決勝	04'19"92	2/4	銀メダル
今村可奈 齋藤京香	女子 800 m自由形メドレーリレー	決勝	09'32"19	2/4	銀メダル (日本新)
今村可奈 藤川彩夏	女子 400 mメドレーリレー	決勝	04'47"68	2/4	銀メダル

## 【卓球】

選手名	出場数	ラウンド	組数	勝敗	対戦相手 (選手名・国)	マッチ	予選成績			成績
							順位	勝	負	

### ◆団体戦

男子 団体戦	9	予選リーグ	3	負	中国	0-3	2/3	1	1	予選通過
				勝	マカオ	3-0				
	6	決勝 トーナメント	-	勝	香港	3-2	3/6	2	1	銅メダル
				負	台湾	1-3				
女子 団体戦	7	予選リーグ	3	負	イラン	3-0	1/3	2	0	予選通過
				勝	カザフスタン	3-0				
	4	決勝 トーナメント	-	勝	韓国	3-1	2/4	1	1	銀メダル
				負	中国	0-3				

### ◆男子シングルス

伊藤優希	34	予選リーグ	3	勝	Amir Asadollahzadehfahim	イラン	3-0	1/3	2	0	予選通過
				勝	SERVO SENGUPTA	インド	不戦勝				
大室達也	34	決勝 トーナメント	-	負	Wang Cong	中国	0-4	8	1	1	ベスト8
				勝	LU SHIH-CHIEH	台湾	3-0				
井藤博和	34	予選リーグ	3	勝	Daniyar Iskenderov	カザフスタン	3-0	1/3	2	0	予選通過
				勝	HO YAU PING	香港	4-0				
		決勝 トーナメント	-	負	YANG JUNG-TSUNG	台湾	0-4	32	0	1	ベスト32
				勝	Wong Peng Hong	マカオ	3-0				
有馬 歆生	34	予選リーグ	3	勝	OH Seuk	韓国	3-2	3/3	0	2	予選落ち
				負	Masoud Ghorbanivalikchali	イラン	2-4				
				負	YANG JUNG-TSUNG	台湾	0-3				
				負	Serik Daniyarov	カザフスタン	0-3				

選手名	出場数	ラウンド	組数	勝敗	対戦相手 (選手名・国)	マッチ	予選成績			成績
							順位	勝	負	

#### ◆女子シングルス

川崎 瑞恵	25	予選リーグ	3	勝	SURAVI GHOSH	インド	不戦勝	1/3	2	0	予選通過
		勝		LUI LAI KWAN	香港	不戦勝					
		決勝 トーナメント	-	勝	CRISTINA MALAY	フィリピン	4-0	8	1	1	ベスト8
				負	Wang Yutong	中国	1-4				
大室 萌花	25	予選リーグ	3	勝	Marina Li	カザフスタン	不戦勝	2/3	1	1	予選通過
		負		Niu Xinru	中国	0-3					
		決勝 トーナメント	-	負	Shi Ce	中国	0-4	16	0	1	ベスト16
椋田 愛梨	25	予選リーグ	3	勝	LEE Ahyun	韓国	3-1	2/3	1	1	予選通過
		負		Wang Yutong	中国	1-3					
		決勝 トーナメント	-	勝	CHANG YI-CHUN	台湾	4-1	8	1	1	ベスト8
				負	Niu Xinru	中国	0-4				
高岡 里吏	25	予選リーグ	3	勝	CHEUNG YIN TAK	香港	3-0	2/3	1	1	予選通過
		負		Shi Ce	中国	0-3					
		決勝 トーナメント	-	勝	Lin Huan	中国	0-4	16	0	1	ベスト16

#### ◆男子ダブルス

伊藤優希 井藤博和	16	予選リーグ	4	負	YANG JUNG-TSUNG WANG YI-HSIUNG	台湾	0-3	2/4	2	1	予選通過		
				勝	H Seuk YU Juntae	韓国	3-1						
				勝	ESWAIL AL-ZUBAIR WALEED ATEL	イエメン	3-0						
				決勝 トーナメント	-	負	Wang Cong Zhang Chaoyue	中国	0-4	8	0	1	ベスト8
有馬欽生 大室達也	16	予選リーグ	4	勝	Daniyar Iskenderirov Bekzhan Tulengutov	カザフスタン	不戦勝	1/4	3	0	予選通過		
				勝	LU SHIH-CHIEH KUO YUEH TUNG	台湾	3-0						
				勝	Ma long Wong Peng Hong	マカオ	3-0						
				決勝 トーナメント	-	勝	Kanat Konkubayev Serik Daniyarov	カザフスタン	4-0	4	1	2	4位
						負	Wang Cong Zhang Chaoyue	中国	0-4				
				負	LU SHIH-CHIEH KUO YUEH TUNG	台湾	1-4						

#### ◆女子ダブルス

川崎瑞恵 高岡里吏	11	予選リーグ	3	負	Wang Yutong Lin Huan	中国	1-3	2/3	1	1	予選通過
				勝	Masoumeh Choupani Gameh Dareh Sara Karamizangishehei	イラン	3-0				
		決勝 トーナメント	-	負	Shi Ce Niu Xinru	中国	0-4	8	0	1	ベスト8
椋田愛梨 大室萌花	11	予選リーグ	4	勝	SURAVI GHOSH SHINEY A GOMES	インド	不戦勝	1/4	3	0	予選通過
				勝	CHEUNG YIN TAK TONG WING KOK	香港	3-0				
				勝	CHANG YI-CHUN CHEN CHIEN-FEI	台湾	3-0				
				決勝 トーナメント	-	負	Shi Ce Niu Xinru	中国	0-4	3	1
		勝	CHANG YI-CHUN CHEN CHIEN-FEI			台湾	4-3				

選手名	出場数	ラウンド	組数	勝敗	対戦相手 (選手名・国)	マッチ	予選成績			成績
							順位	勝	負	

◆混合ダブルス

大室達也 川崎瑞恵	22	予選リーグ	3	勝	WU HO TING LUI LAI KWAN	香港	不戦勝	1/3	2	0	予選通過
				勝	SHIN Cheoljin KIM Seoyoung	韓国	3-0				
		決勝 トーナメント	-	負	HO YAU PING CHEUNG YIN TAK	香港	4-0	8	1	1	ベスト8
				負	Zhang Chaoyue Lin Huan	中国	1-4				
有馬歎生 高岡里吏	22	予選リーグ	3	勝	SERVO SENGUPTA SURAVI GHOSH	インド	不戦勝	1/3	2	0	予選通過
				勝	NG WAI YIP WONG HIU CHING	香港	3-0				
		決勝 トーナメント	-	負	NG KIN SING TONG WING KOK	香港	4-0	8	1	1	ベスト8
				負	SHIN Cheoljin KIM Seoyoung	韓国	1-4				
井藤博和 大室萌花	22	予選リーグ	3	勝	Li Yunnan Shi Ce	中国	不戦勝	1/3	2	0	予選通過
				勝	Bekzhan Tulengutov Madina Kamalova	カザフスタン	不戦勝				
		決勝 トーナメント	-	負	YANG JUNG-TSUNG CHANG YI-CHUN	台湾	1-4	16	0	1	ベスト16
伊藤優希 棕田愛梨	22	予選リーグ	4	勝	Daniyar Iskenderov Kulzhamila Adilova	カザフスタン	3-0	2/4	2	1	予選通過
				勝	OH Seuk LEE Ahyun	韓国	3-0				
				負	WANG YI-HSIUNG CHEN CHIEN-FEI	台湾	1-3				
		決勝 トーナメント	-	勝	NG WAI YIP WONG HIU CHING	香港	4-1	8	1	1	ベスト8
				負	Wang Cong Wang Yutong	中国	0-4				

◆男子団体戦◇最終結果

順位	国名
1	中国
2	台湾
3	日本
4	イラン
5	カザフスタン
6	香港
7	韓国
8	マカオ

◆女子団体戦◇最終結果

順位	国名
1	中国
2	日本
3	韓国
4	イラン
5	カザフスタン
6	香港

## 【テニス】

### ◆女子シングルス

	選手名	対戦相手	成績	結果
1 回戦 10月4日	村山奈留美	Parul Gupta (インド)	4-3ret	勝
	山口華恵	Wang Yuling (中国)	1-6、0-6	負
	大河内香	Shaik Jafreen (インド)	0-6、2-6	負
2 回戦 10月6日	豊田恵子	Ho Chiu-Hsiang (台湾)	3-6、2-6	負
	村山奈留美	Lin Chia-Wen (台湾)	4-6、0-6	負

### ◆男子シングルス

	選手名	対戦相手	成績	結果
1 回戦 10月4日	梶下怜紀	Tang Xueliang (中国)	6-0、6-1	勝
	親松直人	Wang Chun-Wei (台湾)	5-7、6-3、4-3ret	勝
	鈴木裕将	Prashanth Dashartha Hamsabaavi (インド)		不戦勝
2 回戦 10月5日	梶下怜紀	Lin Chun-Jan (台湾)	6-0、3-0ret	勝
	親松直人	John Lui (オーストラリア)	6-1、7-5	勝
	松下哲也	Huang Guo-Wei (台湾)	6-0、6-1	勝
	鈴木裕将	Yang Zengbao (中国)	7-5、0-6、6-3	勝
準決勝 10月6日	梶下怜紀	松下哲也	3-0ret	松下：銅
	親松直人	鈴木裕将	7-6、6-1	鈴木：銅
決勝 10月8日	梶下怜紀	親松直人	6-1、6-1	梶下：金 親松：銀

### ◆女子ダブルス

	選手名	対戦相手	成績	結果
1 回戦 10月4日	豊田 & 村山	Shen・Wang (中国)	4-6、6-0、10-8	勝
	大河内 & 山口	Jafreen・Gupta (インド)	4-6、2-6	負
準決勝 10月5日	豊田 & 村山	Ho・Lin (台湾)	1-6、0-6	敗：銅

### ◆男子ダブルス

	選手名	対戦相手	成績	結果
1 回戦 10月5日	梶下 & 松下	Lin・Wang (台湾)	6-3、6-1	勝
	親松 & 鈴木	Chin・Huang (台湾)	6-0、6-0	勝
準決勝 10月6日	梶下 & 松下	Tang・Yang (中国)		不戦勝
	親松 & 鈴木	Prashanth・Sekhar (インド)		不戦勝
決勝 10月7日	親松 & 鈴木	梶下 & 松下	7-5、6-0	親松 & 鈴木：1 位 梶下 & 松下：2 位 (参加国数により メダルなし)

### ◆ミックスダブルス

	選手名	対戦相手	成績	結果
1 回戦 10月4日	松下 & 豊田	Wang・Ho (台湾)	2-6、2-6	負
	親松 & 村山	Huang・Sha (台湾)	6-0、6-3	負
	鈴木 & 大河内	Lin Chun・Lin Chia (台湾)	6-3、2-6、6-10	負
	梶下 & 山口	Prashanth・Gupta (インド)		不戦勝
2 回戦 10月5日	親松 & 村山	Tang・Wang (中国)	4-6、6-4、10-4	勝
	梶下 & 山口	Chin・Ho (台湾)	6-4、6-2	勝
準決勝 10月6日	親松 & 村山	Lin Chun・Lin Chia (台湾)	6-4、6-4	勝
	梶下 & 山口	Wang・Ho (台湾)	2-6、0-6	敗
決勝 10月7日	親松 & 村山	Wang・Ho (台湾)	1-6、0-6	梶下 & 山口：銅 敗 親松 & 村山：銀

#### ※試合ルール

ダブルスのみ、3セット目はスーパータイブレーク (10ポイント)



# 報 告



# 本部報告

ミーティングで確認された当面の課題は下記の通りです。

## 1、背景

国際ろう者スポーツ委員会（以下、ICSDとする）公認の国際大会において、医科学関連と言えは選手団への医師・看護師の帯同と出場選手の聴力検査だけが必要であるとの共通認識が長い間にわたって持たれていました。後者は、ICSD公認大会に出場するための要件として聴力損失が規則に定められた基準を超えていることの証明を国内の病院で取る手続きです。一般財団法人全日本ろうあ連盟スポーツ委員会（以下、スポーツ委員会とする）としては、選手及び所属競技協会からの問い合わせに対する対応は事務局に任せ、医療機関から検査方法や様式に関する問い合わせを受けても十分なサポートができていない状態ではありませんでした。選手が人工内耳を装用する場合の危険性に関する問題がクローズアップされた時期（2010年）に、専門家へのヒアリングを経て委員会としての見解をまとめて示す取り組みが特記される程度です。

(<http://www.jfd.or.jp/deaflympics/resources/aboutci.php>)

一方、日本選手団に医師・看護師を帯同する際は、その都度日本パラリンピック委員会（以下、JPCとする）医学委員会に協力を仰いできたという経過があります。その中で、医師の任務が選手団結成後に団員から提出される健康調査書を確認した上で、現地で発症及び負傷のあった団員に対応することに限定されていたことと、スポーツ委員会に医科学を扱う担当がおかれていないために大会への派遣を重ねても医科学に関する積み重ねがないことの二点によるいくつかの問題が、競技選手のコンディショニングを支援する取り組みを重視するという新しい流れの中で顕在化されてきました。

この問題に注目したスポーツ委員会は、2015年5月22日（金）に医科学委員会（仮称）立ち上げのためのミーティングを設けました。

【参加者】立石智彦（医師）・中島幸則（アスレティックトレーナー）・早瀬久美（スポーツファーマシスト）・栗野達人（スポーツ委員会国際事業部長）・大杉豊（スポーツ委員会国際事業部）

## ・トレーナーの資格について

トレーナーを置く競技団体の数が増加しているが、資格の有無、資格の種類はまちまちである。コンディショニングを正しく実行して国際大会で戦える選手を育成する観点から、トレーナーの資格条件を明確にしていくことが課題である。最低限必要な資格として、日本体育協会公認アスレティックトレーナー・日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツトレーナー・医療資格・アスレチックトレーナーカリキュラム修了などが考えられる。

## ・トレーナー講習会の受講について

各競技団体からの受講への推薦をとりまとめてスクリーニングにける体制が必要である。

また、推薦にあたっては、国際大会経験者・CPR/AEDの資格を持つ者、などの推薦規定を作成することも必要である。

## ・アスレティックトレーナーについての正しい理解啓発について

ろう学校レベル（高等部を含む）の競技大会には体育教員がいるのでアスレティックトレーナーの配置は不要と言われたケースもある。国際大会のみならず、国内の全国レベルのスポーツ大会には必ず医療関係者とアスレティックトレーナーを配置し、治療にあたるだけでなく、医科学に関する正しい理解啓発を行うことも必要である。

## ・各競技団体でのメディカルに関する取り組み

各競技団体でメディカルに関する取り組みの内容が異なるため、状況を把握したうえで、スポーツ委員会としてどのような助言・指導ができるかを検討する必要がある。

また競技団体にもメディカル意識を強く持たせることが重要である。

## ・医薬品の調達について

国際大会の際には、市販薬と医師から発注する医療用医薬品（処方箋が必要なもの）を揃えているが、調達にあたっては開業医の協力、あるいは、国立スポーツ科学センター（JISS）

からのルートなど、医科学委員会を設置した上での調達ルートの確立も必要である。

#### ・望ましい医科学委員会(仮称)の構成メンバー案について

- ・医師（内科）  
⇒アンチドーピングに関しても担当
- ・医師（外科）
- ・医師（耳鼻科）  
⇒聴力検査および人工内耳に関して担当
- ・アスレティックトレーナー
- ・スポーツファーマシスト
- ・スポーツ栄養士
- ・メンタルトレーナー（スポーツ心理学者）  
ただし、メンタルトレーナーは資格も確立されていないので、心理学者や大学教授が担うことになり、まだまだ国内での認知度は低い。

## 2、第8回アジア太平洋ろう者競技大会（桃園）への目標と体制

医科学委員会（仮称）立ち上げミーティングでまとめた内容をもとに、現時点でベストのメディカルチームを組んで、実際に現地で運用することが、今大会の目標となりました。

今大会の本部メンバーは、団長・副団長・事務局等のほかに、メディカルチームを下記の通り編成しました。

- ・医師 3名（1名は全期間、他2名が交替）
- ・看護師 1名
- ・アスレティックトレーナー 2名
- ・手話通訳士 2名（3名の予定が都合により渡航直前で2名に変更）

## 3、医科学委員会（仮称）が掲げた“理想的なメディカル体制”に向けて、今大会を通じて感じた課題等

### ①『各チームのトレーナーのレベルや意識の向上が必要』

メディカルチームのアスレティックトレーナーが各競技団体トレーナーとコミュニケーションを図った結果、トレーナーとしての知識や意識について差が見られ、彼らが共通認識を作れる場を設ける、あるいは資格を明確にする必要性の指摘がなされました。

またトレーナーとしての質だけではなく、ト

レーナーという立場について、チームに関わるスタッフに理解を深めてもらう必要性もあるようです。各チームトレーナーが増えつつあるということで、メディカルに関して意識は高まっているのだと思いますが、ろう者スポーツにおけるトレーナーとしての立場の確立のためには、トレーナーがただのサポートする人にならないように各競技団体スタッフの認識をトレーナーの質と共に向上させていくことが重要ではないかということです。

その上で選手とメディカルの関係としても、選手自身がケアの方法やトレーニング方法など学ぶ環境を提供できるような体制を整えれば、今後のデフスポーツのさらなる発展へと繋がるのではないかと考えます。

### ②『聴覚障害者の特性を理解する機会の設定、及び聴覚障害者をサポートしているという理解と意識が必要』

デフスポーツの目的、関わる者としての心構えや聴覚障害者の特性、あるいは関わり方を知らずに帯同しているメディカルスタッフも多く見受けられます。理想とするメディカル体制は、本部のメディカルチームだけではなく、各競技団体に帯同するメディカルスタッフや関係者が、自分たちがサポートする選手はどんな人たちなのかを把握することが重要です。

競技参加者をまず選手として尊重し、そのうえで能力が十分に発揮できるようにサポートしていく。そのためには聴覚障害についてよく理解しておくことは必要条件であると考えます。

- ・日本代表として、選手やスタッフの自覚を高めること
- ・耳の聞こえるスタッフは聴覚障害者の特性やデフスポーツの現状を理解すること
- ・選手のために考え行動するスタッフを育てること
- ・役割分担を明確にした中でチームとして選手のコンディショニングをサポートしていくこと

### ③『各チームのトレーナーの資格（資質）にも絡んで、本部のアスレティックトレーナーの有効活用ができていなかったのではないかと。本部の役割を理解してもらうことが今後の本部の課題』



最近では各競技団体にトレーナーが帯同して、選手の身近でサポートできる体制が整いつつあり、それは一つの成果と言えますが、本部のメディカルチームの機能を十分理解していない競技団体もあり、競技によって大きな差がありました。また、大きなけがや判断に迷う状況下では、本部メディカルチーム帯同の医師が判断、助言、サポートすることも多くあることから、特に国際大会など自己判断での行動ができない場合は、日本選手団として一体した動きがとても大事にあると考えます。

併せて本部メディカルスタッフも、一人ひとりがどんな役割を担っているのか把握したうえで、「チーム」であることを留意した動きが必要です。

#### ④『本部と各競技の情報共有やコミュニケーションが成立していない、もしくは一方通行である』

本部、そして各競技団体のメディカルを担当するスタッフ一人ひとりが、お互いの役割を理解し、デフスポーツに関わる意義を理解しながらチームとして取り組むことが、デフスポーツの全体的な底上げにも繋がるのではないかと感じます。そのためには、日ごろから関係者が集い、情報共有を行うことがとても重要です。

#### ⑤『恒常的な医科学委員会があれば、大会時の即席メディカルチームではなくメンバーを編成することができるのではないか』

スタッフの派遣が、一大会毎に完結する傾向があり、メディカルスタッフ自身の自己努力で行われる部分が大きく、組織的に将来を見据えた人材育成ができていないのが現状です。

- ・日ごろからデフスポーツと関われるメディカルスタッフを増やし、信頼関係を築く中でサポートできる人材を育成すること
- ・意思疎通に携わるスタッフ(手話通訳者)は、手話、日本語能力の向上に努めることはもちろん、該当する競技の知識と身体機能等の関係についても研鑽に励むこと。
- ・周囲が「手話通訳」という専門スタッフの存在をきちんと認識したうえで、通訳を介してコミュニケーションするのか、ダイレクトに行うのかの判断ができるようにすること

#### ⑥『医科学委員会を設置するための経費負担』

専門職である医師やアスレティックトレーナーへの謝金はしかるべき額で支払われるべきと考えますが、実際にはそれが叶わず、すべてボランティアでお願いしているのが現状です。これは、スポーツ委員会にとっても、各競技団体にとっても大きな課題の一つです。

### 4、今大会における連絡体制等についての課題

#### ①事前の各競技団体との情報共有と情報発信

実行委員会から事前に提供される情報や、事前調査にて分かったことなどは、逐次、競技団体へ配信し情報共有を図っていきましたが、大会目前まで発表されない内容も多く、各競技団体にとって満足のいく情報共有ができなかったことが反省の1つです。

本部メディカル体制についても、各競技団体へは早めに周知をし、大会に影響がでるような怪我等の連絡を出発前から取り合ってあれば、現地での本部メディカルの活動に活かせるのではないかと思います。

本部メディカルチームと各競技団体のトレーナーとの連携を出発前から円滑に行えるような体制が作れたら更に良いと考えます。

#### ②現地での連絡体制

本部スタッフ同士はスマートホンのLINEグループ機能を活用して情報共有し、常に連絡が取れる状態で連携を図ることができました。

また、1日2回(8時と18時~19時頃)本部スタッフ全員によるミーティングを実施し、大会運営状況や選手・スタッフの健康状態についての情報交換、当日または翌日の本部スタッフの行動予定を確認しました。

一方、競技団体と本部との連絡方法については、携帯電話の番号とパソコンのEメールアドレスを公開していましたが、十分な周知ができていなかったこと、携帯電話は電波の状況によっては切れてしまったり、聞き取りづらい時がある、パソコンのメールはパソコンの前から離れてしまったりは確認することができないという即時性に欠ける面があります。

各競技団体からの受診希望と緊急連絡も携帯電話とパソコンのメールとしていたため、メール機能のある携帯電話(もしくはスマートフォ

ン) レンタル等の導入が望ましいのではないかと考えます。今後の国際大会で現地における連絡手段の確立が必要です。

## 5、本部メディカルルームについての課題

### ①滞在ホテルの分散

アジア太平洋ろう者競技大会の場合はデフリンピックと違い、派遣主体が各競技団体であるため、宿泊先のホテルも各競技団体が決めることになっています。今回は、本部と同じホテルに宿泊したのは2つの競技団体のみで、日本選手団としては3つのホテルに分散となりました。そのため、聴覚障害者にとってはコミュニケーションが困難である、ホテル間の移動手段がタクシー利用になり不便であるなどの理由から、本部メディカルの機能が十分に果たせなかったと感じます。デフリンピック大会のように全員が同じホテルに滞在することが理想的ですが、競技会場との距離や移動手段、宿泊料金等の課題がありますので、次回大会に向けて、メディカル体制も含めた効果的な方法を検討していく必要があると感じました。

### ②トレーナールーム

トレーナールームのコンディショニング利用面から考えると、もう少し開放的であったほうが良かったかと感じました。事前にトレーナールームの利用方法やその意図をきちんと周知することはもちろんのこと、事務局部屋とコンディショニングのための部屋は分けておくほうが、選手は利用しやすかったのではないかと思います。

また、プライバシーの保護、あるいは重篤な病人が出た場合などを想定して、コネクションルームや2つの部屋を用意するなどの工夫もあると良いと考えます。

## 6、医薬品について

薬のチェック・携行薬剤の準備をスポーツファーマシストの早瀬久美さんにご協力いただきました。大会開催の季節や内容によって準備する薬剤が異なることを把握しているスポーツファーマシストが重要な役割を持つことが再認識できました。

薬剤師が準備し医師が確認することに加え、衛生材料、使用機器については看護師も事前確

認しておいた方が良かったと感じました。今回は必要な衛生材料等については、後から現地入りしたスタッフに補充してもらうことができてとても助かりました。

現地のメディカルルームでは、医薬品や衛生材料は持参したスーツケースに配置し、AED1台を常備、競技場等への携帯用としてデイバックに応急処置用品を装備し、AED 1台も携帯しました。

加えて、選手及びスタッフ全員の基本健康調査書・診断書・コミュニケーション状況調査の情報は競技チーム別にファイルし、相談・診察の連絡を受けた際には選手氏名や既往歴等を速やかに確認することができたので、問診、診察・処置・診療録の管理をスムーズに行うことができました。

## 7、担当した業務内容について

立石智彦・宇土美於・今川竜二（医師）

今回医師は2名の体制で帯同させていただきました。宇土→立石が交替で、もう1名は今川が帯同しました。今川は聴覚障害の医師であり、初期研修医の立場であり上級医と連絡、相談のもと医療行為を行うことが基本でした。初めての帯同でありましたが、選手とのコミュニケーションもよく、今後ゆくゆくはデフスポーツのメディカルで活躍していただけたらと思います。

メディカルチェックは、診断書・調査票が届いた遠征1週間前に行いました。アレルギーのある選手がおりナッツ類他で発作を起こした経験のあるため、詳細に調査して有事の際に備えました。

また、デング熱が台湾南部で流行しているため、留意点を視覚的に理解しやすいようにパンフレットを作り各競技団体に配布しました。

台湾に入ってから本部での滞在と競技場への巡回を2本柱とし、選手およびスタッフの健康の把握や必要に応じた医療行為を行いました。ある競技では、2回救急車に乗る選手がありましたが、大事には至らず大会前～大会中に大きな障害外傷はありませんでしたが、今大会は競技によりホテルも違い、会場と本部の距離もあったため移動で多少時間を取ることがありました。

看護師には受診の受付対応・カルテ管理・薬管理を行ってもらい、トレーナーとも連携を取って選手・スタッフの対応をしました。選手診察の時は手話通訳士にも必ずいただい形にしました。これまでは帯同メディカルスタッフは聞こえる者のみでしたが、聴覚障害の医師が加わったことで、様々なコミュニケーションのパターンが生まれたと思います。

#### 百々幸子（看護師）

本部メディカルチームの看護師（帯同1名）として競技大会に参加する日本選手団の健康管理、疾病、外傷などに対する応急処置などの診療業務を担当しました。

事前に各競技団体に配信された「医療チームマニュアル」により、相談・受診希望時はチームの担当者から、まず看護師の携帯電話に連絡が入り、医師に報告して指示のもと手話通訳士、トレーナーと受診時間を調整して診療を行う体制でした。メディカルスタッフは午前午後の2チームに分かれて競技会場に赴き、選手の健康状態や参加状況の観察を行いました。経過観察の必要な選手は、練習や試合終了後に本部メディカルルームに来てもらい診察を行いました。選手の競技スケジュールや疲労度を考慮し滞在ホテルへの往診も行いました。

その他、薬剤・衛生材料の在庫管理、使用機器の点検等を担当しました。

#### 中島幸則・石渡あゆ未 （アスレティックトレーナー）

本部アスレティックトレーナー（以下AT）2名は、医師と連携して各競技団体のサポートを行いました。今大会、トレーナー帯同のあった競技団体は8競技、帯同が無かったのは2競技のみでした。前回の2013年のデフリンピックで帯同のあった競技は9競技、帯同の無かったのは6競技でしたので、トレーナーの必要性も理解されてきていると嬉しく思います。その反面、我々本部ATは、その役割を果たすため、積極的に競技団体に寄り添う形で行動しました。

具体的には、各競技団体トレーナーとコミュ

ニケーションをとり、本部メディカルルームでのドクターの診察以外にも、我々ATによるコンディショニング指導、鍼灸治療が行えること、またトレーナー関連物品の不足への対応について説明しました。

今大会でのトレーナールーム利用は24件であり、そのうち急性外傷は4名（打撲等軽傷除く）、治療中も含めて慢性障害7名でした。外傷のうち、試合が継続して行われていた2名については鍼灸治療を施し、大会終盤に試合へ復帰することができました。慢性障害について、特にトレーナー不在のチーム、またはトレーナーが帰国後だったので、コンディショニングとして、準備していた物品（フォームローラーやバランスボール等）を活用することができました。疲労に対する鍼灸マッサージを希望する選手、チームもありましたが、セルフコンディショニングが原則であり、各チームで対応すべき場面も多々見受けられましたので、それを含めてコンディショニング指導について選手だけではなく各競技団体関係者の理解を深めてもらう必要はあると感じました。

メディカルチーム全体として医師・AT・手話通訳士が2班に分かれて行動し、医師の診断と対応、選手とのコミュニケーションが円滑におこなうことができたことは活動しやすかったです。特に外傷が起きやすいサッカーや柔道では会場への巡回をおこなうことで診断、対応の相談が迅速に判断できたことは良かったことだと思います。

#### 長山 綾・森本行雄（手話通訳）

主な業務は、医師、看護師、トレーナーで編成されているメディカルチームが、選手やスタッフの診察や治療を行う際の手話通訳、本部スタッフのミーティングや来室者の対応、各競技会場への移動時の手話通訳等です。毎日の業務時間は平均8時～19時で、その他時間外に医師の診察があった場合は、適宜同行しました。

メディカルはケガだけではなく内科的な部分まで幅広く関わります。また、必要に報じてトレーナーによるハリ、お灸、超音波治療そしてストレッチやテーピング指導も行われます。基本的にメンテナンスは各競技団体に委ねられて



おりトレーナー帯同の競技も多いのですが、帯同していない競技やケガや事故の可能性が高い競技には会場へ赴き、コンディション確認をすることも大切な役割なので、その際も手話通訳として同行しました。

コミュニケーションについて、手話、口話で会話をする選手の他、音声の主とした選手も多い印象を受けました。また、監督、コーチ、トレーナーに健聴者が関わる競技も多く、本部に来室された方々の手話通訳も役割の一つでした。

現地の日本語通訳者を通じて、本部専用車両の運転手、ホテル関係者等との間の手話通訳もありました。また、選手がゴール直後に倒れ、熱中症の症状で救急搬送された際には、台湾語-日本語通訳者とともに、同行しました。

それらを通じて感じたことは、日本語と異なる言語圏での手話通訳では、その出来いかんは日本語通訳者の力量に負うところが大きいと言うことです。

今回は、聴覚障害のある医師が1名帯同しました。その医師と、聴覚障害の本部スタッフとの意思疎通が手話通訳を介することなく、直接手話等で取れたことは特筆すべきことです。逆に、他のメディカルスタッフとのコミュニケーションには、手話通訳者が入ることになりました。

また、意思疎通の業務以外には、記録としての写真撮影、スケッチもしました。

## 岡安澄子・後藤啓二・加茂下和子（事務局）

### ①事前準備

・本部スタッフ体制作り

スポーツ委員会を設置を検討している「医科学委員会(仮称)」にご協力いただいている医師・アスレティックトレーナーを中心に、帯同の依頼を行いました。看護師は、これまでのデフリンピックでもご協力をいただいた国立身体障害者リハビリテーションセンターより派遣いただくことができました。また、手話通訳者は全国手話通訳問題研究会及び当連盟登録の手話通訳者にご協力をいただきました。

・健康診断・聴力検査等

聴力検査表の提出が必要な選手に提出依頼をしました。

強い食品アレルギーのある選手のために、保護者との連絡を密にとり、現地でアレルギー源の摂取をしないよう、中国語や英語でアレルギー物質が含まれていないかが確認できるメモを作成してもらうなどのフォローをしました。

・宿泊手配

アジア大会は派遣主体である各競技団体が渡航手続きや宿泊先の選定を行いますが、大会のオフィシャルホテルを希望する団体が7団体ありましたので、とりまとめを行い実行委員会への申し込みをしました。

実行委員会との窓口はスポーツ委員会になるため、デフリンピックでは旅行会社に委託できる業務でも、スポーツ委員会にて競技団体に確認をする作業が発生しました。旅行会社は競技団体が選定するものですが、旅行会社がまちまちだったことも業務が煩雑になった面があります。

### ②現地での業務

実行委員会のオフィシャルホームページで事前に情報収集に努めましたが、現地に行ってからわかることも多くあり、現地で得た情報を各競技団体に周知しました。

本部スタッフでは基本的に毎日、朝と夜にミーティングを行い、各担当からの報告と情報共有、翌日の行動スケジュールについて確認を行いました。特に競技が始まるようになってからは、メディカルスタッフが交代で競技会場に出向いて選手のケアができるようにしたので、その日の試合結果と翌日の試合予定を大会ホームページで確認し、スケジュール案を立てました。

## 石澤慧（輸送）

本部スタッフの重要な「足」となる本部車両と現地実行委員会や各競技会場等でスムーズなコミュニケーションを取るための台湾語通訳者を手配しました。

車両については期間中を通して、9名乗りバンを手配、突発的な事象にも対応できるように準備しました。

通訳者については下見の際に同行した李氏を引き続き手配しました。各競技会場や大会実行



委員会、ホテルを一度視察している部分が非常に有効だったと感じています。実行委員会の運営や説明に不明瞭な部分も多く、何度も実行委員会に確認をする局面が発生しましたが、日本選手団本部の一員として意識を持ち、実行委員会に対ししっかりと疑問を投げかけていた部分は運営上、大きな助けになりました。

## 8、今後の派遣で改善が必要な点・今後の課題等

### ①事前準備

- ・本部の体制、現地での日々の動きを確認する体制を事前に準備し、本部スタッフ責任者レベルで個々の業務の対応をシュミレーションしておく必要があります。また余裕があれば各競技団体とそれぞれの派遣体制や留意点など事前打ち合わせをしておく方が良いと考えます。(団長)
- ・アジア太平洋ろう者スポーツ連合 (APDSC) 及び大会実行委員会との連絡窓口が連盟事務所であるので、複数の職員体制で連絡文書の内容などを常にチェックしておく必要があります。また、APDSC及び大会実行委員会との連絡は全て英語であるため、連盟事務局内での翻訳体制を整えておく必要があります。(団長)
- ・役員やスポーツ委員は任期により交替があり、職員も担当が替わることを前提に、スポーツに関する知識もマニュアル化をしておき、担当が変わっても対応できるよう整えておくことが重要です。(団長)
- ・医師の確保は長期には困難なことが多く、早目の準備が必要であることが再認識されました。(医師)
- ・メディカルチェックから大会までの期間が短く、確認の選手などの対応が日本で十分にできなかったように思います。(医師)
- ・選手への健康診断書とドーピング関係の薬物調書提出依頼を、短い期間で提出をしていただくことになり、選手や競技団体の皆さまには負担をかけることとなってしまいました。大会までのスケジュールを作成して、余裕をもった準備ができるようにすることが次回に向けての課題です。(事務局)
- ・聴力検査表について、記載方法やこの検査は日本人には必要がない等の連絡を病院から受

けるケースがあり、そのたびに説明が生じました。あらかじめ、選手にも病院側にも分かりやすい丁寧な説明(文書化したもの)を準備することも課題です。(事務局)

### ②本部体制

- ・渡航直前で手話通訳者が3名から2名になりました。2名で常に打ち合わせをしながら担当分けをし、時間調整するなど工面をし、なんとか最後まで担うことができました。しかし、2名同時に別の場所で手話通訳を行うことも多く、もし片方が体調を崩したら、1名では到底担うことができない状態でした。一週間以上にも渡る、しかもすぐに交代要員を手配できない環境下では、予め3名の手話通訳体制があれば安心であると感じました。今回は、本部スタッフと同じホテルに宿泊した競技チームは2チームだけだったので、メディカルスタッフが離れたホテルに出向き、選手の健康管理、診察等を行うことがあり、その移動も負担に感ずることがありました。(手話通訳者)
- ・デフスポーツに関わる手話通訳者は、医療やスポーツに関する最低限の知識も持つておく必要があると思います。今回はたまたま日ごろからデフスポーツに関わっている手話通訳者でしたが、それでも戸惑う場面もあったので、デフスポーツに関わる通訳者の学習や育成も必要であると感じました。(手話通訳者)

### ③本部スタッフの健康管理

今回本部スタッフで、渡航直前の急病で帯同できなかった1名、台湾にて体調不良にて活動に制限が生じた1名がおり、健康管理は選手だけではなくメディカルチームとして帯同する本部スタッフも十分に気を付けなければならないと感じました。

医師・看護師により、体調不良の有無や疲労度の確認を随時行い、また、気温・湿度の変化もあり水分の補給、うがい薬の準備、うがいの励行等が図られました。発熱、頭痛等の症状を伴う場合は安静にし、必要時は点滴治療の管理がなされました。

台湾へは渡航時間も短く時差も1時間で現地での移動も比較的スムーズだったので、移動による疲労の影響が少なかったことは幸いであっ

たと思います。それでも、連日長時間にわたる業務対応は、後半のから疲労の蓄積が危惧されました。今回はチームワークと個々の体力で乗り越えることができたのだとしても、本部対応業務においては、休養の取れる交代制の検討が必要ではないかと感じました。

また、長期間の滞在でスタッフ一人ひとりのコンディションを良好に保つためにも、現地ではスタッフ同士のコミュニケーションを十分に図るような環境も必要であると感じました。

#### ④競技団体から

##### ・日本ろう者バドミントン協会

今回はバドミントン協会だけではなく、全日本ろうあ連盟が本部を設置し、医師や看護師、アスレティックトレーナーが待機している状態を作っていただき、大会側も試合会場にトレーナーを設置し、氷や救急体制を作っていただいたので安心して帯同することができました。

そのような体制が身近にあると、国際大会などにおいては安心して選手の対応に務めることができたので、デフリンピックなどにおいてもマルチサポートセンターのような環境があれば良いと思います。しいて言えば、もっと栄養系の協賛を増やしてサプリメントやポカリスエットなどの飲料などが確保していただけると、各競技団体が助かるのではないかと思います。

協会として、スタッフの方々と協力をしたり、選手へのコンディショニングの教育を促すことも大切ではありますが、全日本ろうあ連盟にそのようなサポート体制を築いていけるよう提言していくのも、今後の国際大会における選手サポートの面からは大切になっていくのではないかと思います。

##### ・日本デフバスケットボール協会

全日本ろうあ連盟スポーツ委員会を頂点とする日本代表選手団全体としては、健康調査票・コミュニケーション調査票・診断書の提出および、TUE申請に関する書類が事前に行われ万全の体制で大会に臨むことができたと思います。男子日本代表選手全員にも派遣元であるろうあ連盟の尽力あつての大会であること、ろうあ連盟に対して感謝の気持ちを持つよう常に言い続けているため、選手の協力も迅速かつスムーズでした。

しかし、2013年ソフィアデフリンピックの時も同様の手続きをしたにもかかわらず、今回は連絡が遅かったため（8月31日に周知、締切は9月24日と実質3週間での対応を求められた）、10月の大会の1ヶ月前に診断書を書いてもらうために会社を休んで病院に行った選手もいました。診断書は自己負担であり、病院によって金額も異なります。また予約しないで診断書を書いてもらうことは、病院側の事情によっては非常に長い時間待たされることにもなり、生化学検査の結果は受診日当日に受け取れないため、もう一度会社を休んで病院に行く選手もいました。

今回のように大会を含め、短期間に会社を数日休むことは、選手が日本代表として派遣されるにあたり、勤務先に迷惑をかけてしまうことになるでしょう。ひいては勤務先のデフリンピック等への理解、そしてデフスポーツの社会的信用の低下を招く恐れが生じます。診断書の記入は病院の開いている平日しかできないこと、勤務先を休んで行く選手の負担を考え、少なくとも診断書に関しては3ヶ月以上の猶予が望まれます。

デフリンピック出場経験のある選手の中には診断書を提出した経験があるので、今回も必要ではないかと予想する選手もいましたが、高額な自己負担がネックとなりはっきりと指示がなければ病院に行かないというのは妥当な判断であり、選手を責めることはできません。3週間という期間は対応では不可能ではありませんが、大会直前に選手に対して非常に大きな負担を強いてしまったこと、またコンディショニングに気を遣う時期に、病院へ行くことは、風邪などの病気を移されるリスクがあることを考慮すると、今後は3ヶ月ほどの余裕が欲しいものです。

今回、台湾の実行委員会との連絡がうまくいかなかったため情報がなかなか入らなかったという事情は理解できますが、診断書に関しては現地との連絡の遅延とは関係なく、全日本ろうあ連盟の判断で出来たのではないかと、判断できるところは迅速に判断し、指示を出してもらえれば選手の負担も軽減できるのではないかと、という思いが出てきています。

くり返しのお願いで恐縮ではありますが、新しい試みを取り入れるならスムーズに進まない

ことは受け入れることができるものの、前回と同じことをやるのにここまで焦燥感に駆られながら、文句一つ言わず（実際に選手からの不満などはありませんでした）ろうあ連盟の指示に間に合わせようと、日々の勤務だけでなく、トレーニングの時間の確保などにタイムマネジメントで苦心する選手の姿をみると、我々は真に選手のパフォーマンスを最大限に引き出す支援が出来ているのか疑問だと感じざるを得ません。ただ参加するだけならば、それでも良いかもしれませんが、2013年ソフィアデフリンピックの派遣前から、結果を出すことに非常に強いプレッシャーをかけられている現状の中で、今回のメディカルの準備期間の短さは必ず改善すべき点の一つであることを強く訴えます。

問題点を強く指摘申し上げましたが、日本代表が海外でベストパフォーマンスを発揮できるように願ってのことです。どうかご理解頂きたく存じ上げます。最後にろうあ連盟の大杉様、太田様、大竹様、岡安様、加茂下様をはじめ、現地では中島先生を中心とする医療団の支援には常に安心感がありましたこと、心から感謝致します。そして当協会は今後も日本代表強化については、引き続き力を入れていく所存であります。

#### ・日本ろう者サッカー協会

①メディカル本部には、タクシーで行かなければならなかったです。サッカーは団体であり、食事なども考慮し、時間を見つけて調整しなければならなかったです。それぞれの団体の前に日本代表という団体としてできるだけ、タ

クシーでいかなくてもよい範囲で本部スタッフと常にコミュニケーションをとれる環境に置いて頂けたらと思います。

②サッカーが一番早く現地入りとなります。参加費の支払いが未確認で問題になっており、困惑しておりました。保証金を支払い、なんとか承認を頂くことができました。

ウェアなどに関してもそうですが、ろうあ連盟、それぞれの団体とのコミュニケーションや団結力（日本代表団体として）をもっと高めて欲しいと思っております。

また、大会実行委員会からの情報によりますが、大会前までに大体でかまいませんので提出物などの締切日、予定をスケジュール（1年）のような感じで作成頂けたら助かります。

どうぞよろしくお願い致します。

## 9、今後に向けて

競技団体からの意見・要望にもあるように、今回、本部メディカルスタッフの役割の周知不足が反省として挙げられる一方、本部のメディカルスタッフとしての役割も果たせたのだと評価します。

各チームにメディカルスタッフが帯同し、選手の様子を常に把握できる基本体制が構築された上で本部のメディカルスタッフと連携した体制が望まれます。

今後のデフリンピック等国际大会に向けて、前述の課題や反省、また競技団体から頂いたご意見を参考にしながら、スポーツ委員会としての医科学委員会（仮称）を早期に立ち上げていくこと、その中で恒常的なサポート体制ができるよう、取り組みを進めてまいります。



# 競技団体報告

## 日本聴覚障害者陸上競技協会

半田 博久 (監督)

### ①成績一覧

優勝 8種目 (金メダル6個)

2位 7種目 (銀メダル4個)

3位 4種目 (銅メダル2個)

入賞 8種目 (14名)

大会新記録更新3種目

### ②競技面における評価と課題

#### 1. 大会競技面

・競技会場にアスレティックトレーナーがいて、氷やアイシングを巻くラップを用意しており、当協会のトレーナーにとっては助かっていた。

・1日目の100m予選でスタートランプに何度も不備があり、選手の集中力を途切らせていたのでこのような事がないよう予め要確認をするべき。

また、台湾式のスタートランプ形状がとても小さい上に、サングラスをかけないと逆光によりランプが見にくい面があったため、日本式のスタートランプを導入にすれば問題なく進めたと思う。

・中距離のスタートランプは短距離のスタートランプ形状と違って、大型スタートランプで合図がとてもわかりにくい。

他国の選手が試合開始後にすぐ途中棄権したので、理由を聞いたところ、スタート方法の説明が曖昧で競技に集中出来なかったとの事。

また、台湾の審判が一生懸命にスタート合図について説明しているものの、選手はスタートのタイミングが難しくて混乱状態だったようにみえた。

・試合中、スタートランプを理解できていない選手が何人かいた。

TD会議でスタートランプに対して具体的な説明がなかった。

公式練習でスタートランプ練習も行ったが本番と違う事があった。

全員が理解するまでスタート合図の確認を

行っていたが、確認練習の回数が異なっていた。なので、今後からは3回まで確認練習、プラカードで表示すれば練習または本番の判断がしやすいのではと思います。

また、公式練習で全員参加必須にしてスタート合図の確認を実施すべきだと思えます。そうする事で本番は集中力が高まりやすい。

・ドーピングに呼ばれた選手は本人確認のため、パスポートが必要だと突然言われた。

「IDカードがあれば大丈夫」というスタッフもいれば、「IDカードは無効。パスポートが必要」だというスタッフがいてまちまちだった。

幸い、パスポートのスキャンを見せるだけでも問題なかったが、ドーピングに呼ばれた場合に必要な書類等を予め説明してほしかった。

#### 2. 強化費の運営

・今年度に2回強化合宿（5月埼玉県、8月北海道）を行った。

①埼玉合宿で講師を招いて講演会とトレーニングを行った。

■選手達が必要なトレーニングを覚えることができた。

②北海道合宿でトレーナーから熱中症予防などの講演会を行った。

■台湾派遣で選手達の熱中症防止が出来る事が出来た。

③トレーナーと選手とサブリなどのヒアリングを行った。

■ドーピングに引っ掛りやすいサブリなど聴取を行ったことで、気をつける選手がいた。

・アジア大会派遣人数が多いのでブロック別に分かれる様にした。(短距離、中距離、跳躍、投擲の4つブロックに分かれた。)

①各ブロック長と強化部長で連携

②合宿で練習内容を各ブロックに話し合っ決めて。

③試合がない選手が試合ある選手をサポートしていた

④派遣期間に各ブロックの集団行動

■各ブロック選手達のお互い信頼が高まる事が出来た。



### 3. メディカル（トレーナー等）面における評価と課題

トレーナー 大塚健吾 澤田優

活動内容 1) 国内合宿帯同・国内準備

2) アジア太平洋ろう者競技会帯同

#### 1) <国内合宿帯同・国内準備>

国内合宿帯同（熊谷・横須賀・北海道）

- ・メディカルチェックシートの記入（選手一人一人とトレーナーが面談）
- ・コンディショニングチェックシートの記入
- ・アスリハ、コンディショニングのアドバイス・実施
- ・熱中症対策セミナー
- ・アンチドーピング対策セミナー
- ・メールにてテーマを決めて情報発信
- ・現地の事前調査（台湾における安全管理、デング熱、水など）

#### 2) <アジア太平洋ろう者競技会帯同>

- ・毎朝ホテルでのコンディショニングチェック（シートを記入）
- ・試合前のコンディショニング
- ・試合後のコンディショニング
- ・競技期間終了後のトレーニング
- ・現地での調査（水、暑さ、競技所での安全管理体制）
- ・ドーピング検査

#### <傷害報告>

部位	件数	部位	件数
頭頸部	0	腰背部	4
顔面	0	股関節	1
肩・肩甲骨	3	大腿部	2
上腕部	0	膝関節	3
肘関節	0	下腿部	5
前腕	0	足関節	4
手関節	0	足部・足指	3
指・手部	0	全身	0
胸部	0	その他	0
腹部	0	計	25

25件のうち、競技期間中4件（16%）、競技期間前21件（84%）

#### <トレーナーの対応>

対応	件数
テーピング	21
アイシング	多

エクササイズ	10
マニュアルセラピー	20
ストレッチ（パートナー）	4
本部	2

#### <緊急時の対応の確認>

練習日に陸上競技担当のヘッドアスレティックトレーナーのHugさんと確認ができました。

- 陸上競技会場ではドクター1名、看護師1名、救急隊2名、アスレティックトレーナー3名、学生トレーナー数名という体制
- 緊急時は陸上競技に待機しているメディカルスタッフが中心となって対応
- 防護站（アスレティックトレーニングステーション）では氷が自由にもらえる
- 競技終了までは我々の中に入ることができないので、緊急時は対応していただくようお願いをした。

#### <アジア太平洋ろう者競技大会を終えて>

大塚健吾

- ①今回の陸上競技場で現地メディカルスタッフが待機している安心感は何物にも代えがたいものでした。トレーナーとしての安全管理体制を現地のスタッフが一括していただけることは他の業務に集中できるからです。来年のブルガリア世界選手権での安全管理体制を想定しながら進めていくことが求められると思います。
- ②選手の怪我や痛みのほとんどは国内にて発生したのになります。このことから選手が地元で医療機関やトレーニングができる環境を自ら作っていく必要があります。そのためのトレーナー同士の横のつながりも必要になると考えています。
- ③今回、体調を極端にくずず選手が少なかったのが良かったと思います。選手が自分で体調管理を行っていく流れを国内合宿から行っていけると良いと思いました。

澤田優

毎朝の体調管理チェックで、毎朝、顔を合わせ表情をみたり試合前の精神状態、それぞれのパターンも把握でき、少しの変化にも気づくことができました。それによって簡単なアドバイスや早い対応ができたことは、大きな事故や病

状につながらなかった一番の要因と感じています。また、他の国の選手、日本の他の競技チームも、何をしているのかと興味を持っているところが、面白く、いい影響ともなったことかと思えます。

## 日本ろう者バドミントン協会

中西 朋実（コーチ）

### ①成績一覧

#### <団体戦>

準優勝（銀メダル）

小堀知史、柿内康平、沼倉昌明、太田歩  
吉田美香、木林歩美、鷹尾すみれ

#### <個人戦>

##### ◆男子シングルス

柿内康平…第3位（銅メダル）

沼倉昌明…ベスト8

小堀知史…2回戦敗退（ベスト16）

太田歩 …1回戦敗退

##### ◆男子ダブルス

小堀知史・沼倉昌明ペア…ベスト8

柿内康平・太田歩ペア…ベスト8

##### ◆女子シングルス

吉田美香…1回戦敗退

木林歩美…ベスト8

鷹尾すみれ…1回戦敗退

##### ◆女子ダブルス

木林歩美・鷹尾すみれペア…準優勝（銀メダル）

##### ◆混合ダブルス

小堀知史・鷹尾すみれペア…第3位（銅メダル）

太田歩・吉田美香ペア…ベスト8

沼倉昌明・木林歩美ペア…ベスト8

今回、銀2個、銅2個のメダルを獲得できました！

### ②競技面における評価と課題

今回、経験した事で感じたのは、ここ数年、海外大会で男子ダブルスがベスト8止まりとメダルから遠ざかってきています。海外選手に比べ足りないものは何か？考えられるのはコンビネーションではないかと思えます。お互いのポジショニングが噛み合わず、空いたコートに打

ち込まれてしまう場面が多々あり、前衛と後衛の役割の認識不足も感じられました。

これからはダブルスのコンビネーションを重点的に練習して、関係の成熟度を高めたいです。前衛と後衛の役割再確認、後衛が前衛に気持ちよく点を決めさせる事をお互いに意識しながらプレーしたいです。後衛の役割は『前衛に点を決めさせるようにショットを打つ』ことだと思います。

また、20-20のとき、ファイナルセットまで持ち込んだとき、あと一步で勝てる場面で、試合運びが円滑にできない、スタミナ切れ、決め球が出せず負けた試合があり、選手と同様、1点1点の重みが大きく、悔しさを感じました。

最後まで貫く信念と覚悟を持って戦い、再び心技体を磨いて高い頂点を目指し行けば、メダルは近付いてくると確信が持てると思います。

### ③メディカル（トレーナー等）面における評価と課題

今回の大会では、ケガ人こそは出ませんでした。何人かの選手が身体の張りや痛みを訴える選手が試合期間の後半になってでてきました。

原因としては、疲労に加えて試合会場の体育館の床が固いこと、ホテルのベッドや枕などが合わなく、いつもより疲労が溜まりやすかったこと、体育館に到着してから試合開始までのW-upの時間が少なかったことが原因になったと思います。

その対応としましては、疲労を残さないようストレッチやアイシングなど疲労を軽減するようなコンディショニングをしたり、ホテルから出るシャトルバスに乗らず、試合時間に合わせてタクシーで移動したりとしました。しかし、「いつもと違う」ことに対する対応が遅く、不十分であったが為にそのような結果になってしまったのではないかと思います。

なので、今後は選手個人で、疲労が溜まる前にセルフケアなどを進んでやったり、スタッフ側もなるべくコンディショニングを考えてもっと行動していかなくてはならないと感じました。

**特定非営利活動法人  
日本デフバスケットボール協会**

篠原 雅哉(協会理事長、男子日本代表選手団長)

①成績一覧

- 8か国中4位
- 1位・オーストラリア
- 2位・台湾
- 3位・中国
- 4位・日本
- 5位・フィリピン
- 6位・イラン
- 7位・香港
- 8位・インド

試合結果詳細は以下の通り

10月6日 日本 VS 台湾 TOTAL・68 - 93 LOST 1Q・15 - 28 2Q・11 - 26 3Q・23 - 18 4Q・19 - 21
10月7日 日本 VS 香港 TOTAL・89 - 44 WIN 1Q・15 - 14 2Q・16 - 4 3Q・26 - 6 4Q・32 - 20
10月8日 日本 VS フィリピン TOTAL・95 - 82 WIN 1Q・25 - 16 2Q・24 - 32 3Q・15 - 17 4Q・31 - 17
10月9日 日本 VS オーストラリア TOTAL・43 - 60 LOST 1Q・12 - 21 2Q・8 - 12 3Q・5 - 14
10月10日 日本 VS 中国 TOTAL・69 - 73 LOST 1Q・19 - 14 2Q・6 - 20 3Q・15 - 17 4Q・29 - 22

②競技面における評価と課題

今大会に向けて、日本代表選手団はJPCの助

成金の枠をいっぱい活用し、可能な限り強化合宿を実施した。大会のテーマはサイズでどうしても他国に劣る日本が、どのように戦うかであった。

7月に行われた世界デフバスケットボール選手権大会では、優勝国のリトアニアに対し、1ピリオド11点に抑え（大会を通して最少）、リバウンド数でほぼ互角であったことから、日本代表の戦い方と可能性が見えた。そのうち、今回特にチームとして強く意識したのはタイミングを外すことと、肉体的に強くあることとし、大会に臨んだ。

しかしながら今大会ではどの試合でもサイズの差からリバウンド本数では差が出てしまったが、ほかのスタッツでは引けを取っていないことがデータから分かっている。1番大きなポイントはターンオーバー数（シュートミス以外のミスで攻撃権が相手に移ること）である。

今大会優勝したオーストラリアとの試合では、オーストラリアの26本に対し、日本代表のターンオーバーの数が7本。3位決定戦では6本。これはバスケットボールの試合では考えられないくらい少ない。アメリカのプロバスケットボールリーグであるNBAのチームでさえ年間通して1試合のターンオーバーの数はおよそ15本である。この数字が何を表しているか。それは、現日本代表選手の戦術実行能力の高さとクレバーさが他国に比べて特に秀でているということである。

具体的には速攻が速く、ハードに守れば勝てるということの概念を捨て、必要ではあるが視点を変えゲームを組み立てた。従来の速い攻めが必要な空気、それを理解せず攻めの回数を増やせば自滅を招くことが今までの結果から明らかなので、我慢強く、忍耐強くプレーすることを求め、選手たちはそれに応えることができたと思う。その証拠に試合を重ねるごとに、プレーの質が上昇していた。身体は疲れているのに、心の強さでカバーし試合をこなすごとに戦術への理解が高まっていた。戦術の理解とチームプレーで、サイズのある他国とも同等に戦うことができたことを選手たちも十分理解している。

③メディカル（トレーナー等）面における評価と課題

当チームにおける評価と課題としては、まず

7月の世界大会を経験したことで、各選手ともにセルフケアの意識や身体をコントロールの大切さの理解度が高くなってきていることが評価できると感じた。今回はトレーナー2名体制で大会に臨み、トレーナー1人で臨んだ7月の大会に比べ、トレーナーだけでなく、選手の負担（特に待ち時間が短縮された）が大きく軽減できた。

そしてトレーニング方法やセルフケアアプローチのかけ方、食事など、気になる事があれば選手達が自ら声をかけに来る事も増えコンディショニングの重要性が少しずつではあるが浸透して来たように思える。しかし選手の身体の使い方やトレーニング方法は大いに改善する余地のあるところである。

またアンチドーピングは事前に申請していた安心感からか、風邪などを引きかけた選手が自分の判断で服薬（アンチドーピングで認められている薬）することがあったため、以降はトレーナーの選手に対する健康管理をよりきめ細かなものにしていく必要があると感じた。

## 日本ろう者ボウリング連合

赤井 正志（事務局）

### ①成績一覧

#### ◆男子シングル

新垣 匡史…13位  
上野 勝巳…14位  
東 博雄…18位  
馬留 久志…23位  
中村 洋三…25位  
細川 賢治…33位

#### ◆女子シングル

米倉 幸…7位  
馬留 由香…13位  
村野 美幸…14位  
栗山美和子…16位  
仲西 麻美…18位  
島袋 恵…21位

#### ◆男子ダブルス

新垣匡史・中村洋三…8位  
東 博雄・馬留久志…12位  
細川賢治・上野勝巳…16位

#### ◆女子ダブルス

米倉 幸・仲西麻美…7位  
村野美幸・馬留由香…8位  
栗山美和子・島袋恵…10位

#### ◆男子トリオ

東 博雄・中村洋三・新垣匡史…4位  
上野勝巳・細川賢治・馬留久志…7位

#### ◆女子トリオ

村野 美幸・馬留 由香・米倉 幸…4位  
栗山美和子・島袋 恵・仲西 麻美…6位

#### ◆団体戦

男子…3位（銅メダル）  
女子…3位（銅メダル）

### ②競技面における評価と課題

今まで、強化合宿では、個人の技術を磨きレベルアップする練習を行ってきました。第8回アジア太平洋ろう者競技大会に参加するために、強化費を活用し選手の強化をしてきましたが、上手くできていなかったことが反省でした。

今回の大会の経験を生かして、今後、強化事業の練習内容を、チームで戦う方法、チームで戦う力を養うように工夫していく必要があると、感じました。

### ③メディカル（トレーナー等）面における評価と課題

メディカルスタッフが帯同していないため、選手の疲労が出てきてからは、本部のメディカルルームに行き、ケアをしてもらいました。今後の課題としては、ボウリングチームとしてもトレーナーが必要ではないかと考えます。また、国際手話通訳者も最低でも1人も置く必要があるなどが挙げられました。

## 日本ろう自転車競技協会

早瀬 久美（ナショナル本部事務局）

### ①成績一覧

◆1,000mスプリント 10月4日（日）  
早瀬憲太郎選手：2位（ノンメダル）  
得利 雄介選手：4位  
川野 健太選手：5位  
野崎 勝利選手：7位

◆35kmタイムトライアル 10月5日（月）  
早瀬憲太郎選手：銅メダル（55"00'09）



- ◆100kmロードレース 10月7日(水)
  - 早瀬憲太郎選手：銀メダル(2'45'46"44)
  - 野崎 勝利選手：8位(2'45'48"44)
- ◆50kmポイントレース 10月9日(金)
  - 早瀬憲太郎選手：金メダル(90ポイント)
  - 川野 健太選手：銅メダル(46ポイント)
  - 野崎 勝利選手：7位(8ポイント)
  - 長濱 圭吾選手：8位(4ポイント)

## ②競技面における評価と課題

3年前ソウルで開催された第7回アジア太平洋ろう者競技大会において、最高順位が4位とメダル獲得はできませんでした。そのため日本ろう自転車競技協会として次大会でメダルを獲得するためにはどうすれば良いか協議を積み重ねてきました。

- (1) 自転車競技のプロであり指導者としても経験のある方を指導者と招聘し、基本からより高いスキルを学んでいく
- (2) 全国各地で開催されている一般レースの中でより高いレベルの大会に参戦して経験を積み重ねていく

の2点を具体的な改善点として取り組みました。

(1)については2014年5月より現役選手である小笠原崇裕選手を監督として招聘し、以来一年間半で約10回の強化合宿を行い自転車の基本からレースでの走り方まで幅広く指導を受けていきました。(2)については3年前より日本サイクルレーシング協会(JCRC)主催の年間シリーズ戦に参戦、また2015年からは全日本実業団自転車競技連盟(JBCF)などの日本トップレベルの大会に日本ろう自転車競技協会として登録して参戦しました。このようにレース経験を積み重ねることを最大の強化として、年間計画をたてていきました。

2013年から日本パラリンピック協会(JPC)に加盟して強化費を受けていくことにより、より多くの強化計画をたてて実績のある監督を招聘することができました。その結果、早瀬憲太郎選手がJCRCではFからSまでのクラスにおいてトップクラスであるSクラスに昇格、JBCFではエリートクラスタのトップカテゴリーであるE1に昇格を果たしています。早瀬憲太郎選手は国内のトップアマチュアのレースでも上位の成績をおさめており、ほか数名の選

手もJCRC・Cクラス、JBCF・E3クラスで走っており、上記(1)(2)の取り組みが確実に実を結んできています。アジアや世界のデフ自転車競技選手のレベルをJBCFのクラスに当てはめるとアジアはE3クラス、世界はE2～E1クラス相当だと小笠原監督は話しています。そのため、より高いレベルでのレースでの経験がメダル獲得に確実に繋がると考え、JCRCおよびJBCFのレースをメインに年間強化計画をたてていきました。

アジア太平洋ろう者競技大会では、日本は4種目すべて表彰台に立ち4つのメダルを獲得することができました。これは小笠原監督の指導のもと、明確な年間強化計画をたててその通りに実行した成果でもあります。自転車競技は個人競技のようで実際はチーム戦であり、出場した5名がそれぞれエースとアシストという役割にわかれ、アシストはエースのために風よけになる、進路を確保する、他国チームと駆け引きをおこなう、補給の手伝いをする、エースを引っ張るなどあらゆるサポートを行います。そしてエースの役割はアシストからのサポートを受けて最終的に結果を出すことにあります。2014年度からアジア太平洋ろう者競技大会を意識して主要選手全員が同じカテゴリに出られるレースに出場し、レース内でエースとアシストの役割分担を行う経験を何度も積み重ねてきました。その経験が今回のアジア太平洋ろう者競技大会でも生かされ、アシストはエースのために渾身的に走り、エースはしっかり結果を残すことができました。

その中で特筆すべきことは、最終種目である50kmポイントレースでアシストの川野健太選手が銅メダルを獲得したことです。エースのサポートをしながらアシストとして結果を出すことができたということは、日本チーム全体としての力の底上げができていたことの証でもあります。

今後の課題としては、アジア太平洋ろう者競技大会では4種目すべてにおいて今回以上の成績及び入賞者を増やすこと、そして2017年夏季デフリンピックでも表彰台に立つ力をつけることにあります。個人競技でありながらチーム競技でもある自転車競技の特性から考えても、やはり一人一人の個の力をもっと上げていかなければ世界という舞台に立った時に通用する



ことが難しいと思われます。今後もJCRC及びJBCFのレースに積極的に参戦し、全員がトップクラスに昇格してさらに高いレベルのクラスで経験していくことが求められます。

### ③メディカル（トレーナー等）面における評価と課題

#### （1）トレーナー

ロードレースのプロチームに帯同したり、競輪やマウンテンバイク（MTB）などの自転車競技選手へのサポート経験が豊富なスポーツアロマ・コンディショニングセンターよりトレーナーを派遣して頂きました。自転車競技という特性を理解した上でのコンディショニングのため、レース前のアップからレース後のリカバリまで一人一人に合わせてその都度的確なサポートを受けることができました。選手全員が4種目出場するというハードなスケジュールの中で怪我もなくベストパフォーマンス状態でレースに挑むことができました。

#### （2）スポーツファーマシスト

事務スタッフ兼任としてスポーツファーマシストにも帯同してもらったおかげで、鎖骨骨折した選手や横紋筋融解症を発症した選手、三角線維軟骨複合体（TFCC）損傷の選手など、薬が必要な選手に対してドーピングに対応したサポートを行うことができました。日本チームとして2名がドーピング検査の対象者に選ばれたときはスポーツファーマシストとして付き添うことにより選手のメンタル面でもサポートができました。

またある選手がレース後に現地の病院に運ばれた際、点滴はドーピングに引っかかる場合もあるうえに、選手本人も拒否したので点滴を断りました。また処方される医薬品名は台湾語⇒日本語への通訳が困難であるため、スポーツファーマシストが英文で書かれた処方せんを直接見てドーピング禁止物質でないことを確認したうえで処方してもらいました。このように現地で医療機関にかかることになった場合、日本チームとしてメディカルが分かるスタッフがその場にいないとフォローが難しいのではないかと思います。

## 一般社団法人日本ろう者サッカー協会

小林 隼（スタッフ）

### ①成績一覧

#### 【サッカー競技】

参加国：全7カ国

（Aグループ）

イラン、日本、オーストラリア、カザフスタン

（Bグループ）

サウジアラビア、韓国、マレーシア

1位：イラン（IRI）

2位：日本（JPN）

3位：韓国（KOR）

4位：サウジアラビア（KSA）

5位：マレーシア（MAS）

6位：オーストラリア（AUS）

7位：カザフスタン（KAZ）

#### 【フットサル競技】

参加国：全3カ国

日本、イラン、アラブ首長国連邦

1位：イラン（IRI）

2位：日本（JPN）

3位：アラブ首長国連邦（UAE）

### ②競技面における評価と課題

#### 【サッカー競技】

評価：日本ろう者サッカー協会のいままでの強化活動の結果、準優勝できました。協会スタッフの役割分担もしっかりしておりサポートも万全で毎試合いい状態で試合に挑むことができました。

課題：アジアや世界は日本が成長している以上のスピードで強化が進んでいますので、もっと若年層への普及活動を行い、指導者を増やしていき継続的に強化を図っていくことが大切だと感じております。

#### 【フットサル競技】

評価：スタッフは主に監督、トレーナー、マネージャーと3名が中心となって少ない人数でも協力し合いながら選手サポートが出来たことは大きい。強豪イランに対して

大きな差はなく、日本のレベルが高くなりつつあることを感じ取れた大会でした。

課題：今後はフットサル人口を増やすべく、ろう者選手の育成環境を作っていくことは必須と考えます。サッカーとフットサル共に指導者養成環境も必要と感じております。

### 【全体】

サッカー競技は人数が多く、助成金や強化費が厳しく、助成金は主に合宿の費用となり、合宿数などが限られてしまいます。また、フットサル競技は助成金がなく、ほぼ、自己負担で合宿を行っています。このような環境の中で若い選手も少しずつ増えており、選手個々の成長、スタッフの指導により、高い目標を維持しながらプレーができています。

今回の大会はサッカーとフットサル共、助成対象となり、スタッフをいつもより多く派遣できました。対戦相手の情報収集など、それぞれの仕事分担ができ、混乱せずにスムーズに行動ができてよかったです。今まで以上にスタッフ、選手とのコミュニケーションがよく取れていたと感じました。

選手だけではなく、スタッフの皆も含めての団体としてチームワークが一番よかったです。結果的にはサッカー、フットサル共、準優勝で悔しい思いをしましたが、今まで感じたことのない素晴らしい感動を覚えました。

世界トップレベルに近づくには、選手だけではなく、スタッフも共に合宿に参加し、選手、スタッフとのコミュニケーションを図りながら、レベルアップしていくことが不可欠であり、今後も頑張っていきたいと思っております。

また、あらゆる面で必要不可欠になっている国際手話を取得した人材育成が急務と感じました。

### ③メディカル（トレーナー）面における評価と課題

今回の大会で飲料などの購入関連は宿泊先の近くにスーパーがあり、前持ってスーパー側に毎日準備するようお願いし、トレーナーと協力しながら、問題なく確保できてよかったです。

また、ろうあ連盟が準備してくださったメディカルスタッフがいたことが大きかったです。

うと思っております。今回は多少の怪我があったものの、大きな怪我もなく、大きな混乱はなかったです。

今後の課題としては、サッカー団体は人数が多く、トレーナーが一人で大変だったと思っております。トレーナーが2人以上いた方が良く思っておりますが、強化費が厳しい状態であり、なかなか難しいです。世界大会で結果を出すしかないと思っております。また、手話でのコミュニケーションは当初よりレベルが上がっていますが、もっとレベルアップを望みます。

## 日本ろう者武道連合

坂口 健二（事務局）

### ①成績一覧

- ◆男子60kg以下 吉良暁生 銀メダル
- ◆男子60～66kg 佐藤正樹 金メダル
- ◆男子66～73kg 蒲生和麻 銀メダル

### ②競技面における評価と課題

強化費を活用して選手の技術強化、練習に励んだおかげでメダルを獲得することが出来ました。

今後は大会までの強化事業を計画的に工夫していく必要があります。

### ③メディカル（トレーナー等）面における評価と課題

武道チームとしてのメディカルスタッフはいませんが、検討中です。今後のチーム体制として、選手・スタッフの強化をする為には、メディカルスタッフの必要性を感じています。

## 日本ろう者水泳協会

豊田 律（監督）

### ①成績一覧

金持義和：

- ・男子50M背泳＝優勝
- ・男子100M背泳＝優勝：金メダル
- ・男子200M背泳＝優勝：金メダル
- ・男子200M自由形＝2位：銀メダル
- ・男子200M個人メドレー＝1位

- ・男子400Mメドレーリレー＝優勝（日本新）
- ・男子400Mリレー＝優勝（アジア新）
- ・男子800mリレー＝優勝（アジア新）

茨 隆太郎：

- ・男子50M自由形＝優勝：金メダル
- ・男子50Mバタフライ＝優勝：金メダル
- ・男子50M背泳＝2位
- ・男子200M個人メドレー＝2位
- ・男子400M個人メドレー＝2位
- ・男子400Mメドレーリレー＝優勝（日本新）
- ・男子400Mリレー＝優勝（アジア新）
- ・男子800mリレー＝優勝（アジア新）

藤原 慧：

- ・男子50M自由形＝2位：銀メダル
- ・男子200M自由形＝優勝（アジア新）：金メダル
- ・男子400M自由形＝優勝（アジア新）：金メダル
- ・男子1500M自由形＝優勝（800M途中計時、世界新）：金メダル
- ・男子50M平泳＝2位（日本新）：銀メダル
- ・男子200Mバタフライ＝1位（日本新）
- ・男子400M個人メドレー＝1位
- ・男子400Mメドレーリレー＝優勝（日本新）
- ・男子400Mリレー＝優勝（アジア新）
- ・男子800mリレー＝優勝（アジア新）

中川裕介：

- ・男子50M自由形＝10位
- ・男子50M平泳＝5位入賞
- ・男子100M平泳＝6位入賞
- ・男子200M平泳＝5位入賞
- ・男子400Mメドレーリレー＝優勝（日本新）

上田雄二：

- ・男子100M自由形＝5位入賞
- ・男子50Mバタフライ＝3位：銅メダル
- ・男子100Mバタフライ＝4位入賞
- ・男子200Mバタフライ＝4位
- ・男子400Mリレー＝優勝（アジア新）

津田悠太：

- ・男子400M自由形＝3位：銅メダル
- ・男子1500M自由形＝2位：銀メダル
- ・男子400M個人メドレー＝3位
- ・男子800mリレー＝優勝（アジア新）

今村可奈：

- ・女子50M自由形＝7位入賞
- ・女子100M自由形＝3位：銅メダル

- ・女子200M自由形＝2位：銀メダル
- ・女子400M自由形＝3位：銅メダル
- ・女子800M自由形＝3位：銅メダル
- ・女子50M背泳＝3位：銅メダル
- ・女子100M背泳＝6位入賞
- ・女子400Mメドレーリレー＝2位：銀メダル
- ・女子400Mリレー＝2位：銀メダル
- ・女子800Mリレー＝2位（日本新）：銀メダル

藤川彩夏：

- ・女子50Mバタフライ＝優勝：金メダル
- ・女子100Mバタフライ＝優勝：金メダル
- ・女子100M背泳＝2位：銀メダル
- ・女子200M個人メドレー＝3位：銅メダル
- ・女子400Mメドレーリレー＝2位：銀メダル
- ・女子400Mリレー＝2位：銀メダル
- ・女子800Mリレー＝2位（日本新）：銀メダル

久保 南：

- ・女子50M平泳＝優勝：金メダル
- ・女子100M平泳＝優勝（日本新）：金メダル
- ・女子200M平泳＝優勝（日本新）：金メダル
- ・女子50M背泳＝2位：銀メダル
- ・女子200M個人メドレー＝4位
- ・女子400Mメドレーリレー＝2位：銀メダル

齋藤京香：

- ・女子400M自由形＝2位：銀メダル
- ・女子800M自由形＝2位：銀メダル
- ・女子200M個人メドレー＝2位：銀メダル
- ・女子400Mメドレーリレー＝2位：銀メダル
- ・女子400Mリレー＝2位：銀メダル
- ・女子800Mリレー＝2位（日本新）：銀メダル

河原あみ：

- ・女子50M自由形＝11位
- ・女子100M自由形＝6位
- ・女子200M自由形＝3位：銅メダル
- ・女子400M自由形＝4位
- ・女子800M自由形＝4位
- ・女子800Mリレー＝2位（日本新）：銀メダル

北島琳菜：

- ・女子50M自由形＝10位
- ・女子100M自由形＝4位入賞
- ・女子200M自由形＝5位
- ・女子50Mバタフライ＝4位入賞
- ・女子400Mリレー＝2位：銀メダル

以上、金メダル12個、銀メダル13個、銅メダル8個の計33個、入賞9個獲得でき、目標

を果たすことができた。今までの強化合宿の成果を表すことができた。

※「1種目、1国につき、決勝進出は上位2名」との規則により、1国上位3人目の選手はメダルおよび入賞は対象外

※「1種目男子5ヶ国、女子4ヶ国以下の場合にはメダル授与出来ない」との規則により、優勝の選手は1位にする。

## ②競技面における評価と課題

大会スケジュールが公表されたのが、エントリー後であり、しかも日程が6日間から3日間に短縮されたことから、その過密なスケジュールでのコンディション面では心配されたが、今まで強化合宿で養ってきたチームワークなどを発揮して、目標達成につながった。

しかし、現地にて大会に合わせてコンディションをうまく調整できた選手とできなかった選手が結果に対して大きく明暗を分けた。うまくできなかった原因はテーパー不足。現地に到着して大会まで時間がたっぷりあったので少し強めのテーパーを実施してレースイメージ、ペース配分をしっかりと身につけてコンディションを上げなければならないと痛感した。それを今後の課題として選手たちにしっかり認識させた。総合的には目標を突破したことから良好に計画的に進んだと思う。

## ③メディカル（トレーナー等）面における評価と課題

今回はトレーナー3名が帯同し、2名体制を実施した。過密なスケジュールの中、しっかりサポートが出来ていた。身体をケアするだけでなく、メンタル面にもサポートし、モチベーションを上げてきたことが高く評価できる。2年後のデフリンピックにも引き続き、同じトレーナーを帯同させていきたいと思う。

## 一般社団法人日本ろうあ者卓球協会

大平 静也（事務局長）

### ①成績一覧

- ◆女子団体戦 銀メダル
- ◆男子団体戦 銅メダル
- ◆女子ダブルス 銅メダル（大室&椋田）

ベスト8（川崎&高岡）

◆男子ダブルス 4位（有馬&大室）

ベスト8（伊藤&井藤）

◆混合ダブルス ベスト8（有馬&高岡、大室&川崎、伊藤&椋田）

◆男子シングルス ベスト8（大室達也）

◆女子シングルス ベスト8（川崎瑞恵、椋田愛梨）

## ②競技面における評価と課題

今年度の強化費は昨年以上に増加されたため、アジア大会までに第8回強化合宿まで実施できました。

なお、前回大会の金メダル獲得の原動力だった主力選手が引退したため、今回に参加したメンバーは国際大会経験者が3名のみ、団体戦出場経験者は男子選手1名のみです。

前回大会は不参加だった中国もベストメンバーで出場しており、また地元である台湾もベストメンバーで参加されており、今回の大会は非常にレベルが高いものでした。その中で、男女団体と女子ダブルスでメダルを獲得できたことは大いに評価します。

厳しい試合を勝ちきってのメダル獲得であり、選手達が最後まで仲間を信じ粘り強く戦い抜いてくれました。しかし金メダル獲得まで至るには、今のままでは大変厳しいと感じられました。

また、シングルスで金メダルを獲得するためには、磨いていかなければならない技術が沢山あり、選手同士ではなく、経験豊富な指導者がいる中で技術・戦術を整理して練習をする必要があると思われました。

練習⇒実践⇒練習を繰り返し、テーマを明確にする。まずは自分が持っている技術を正確に把握し、同時に対戦相手を想定した対策をとる。なにが足りないのか、どこを工夫すればいいのか常に頭も使い、身体も鍛える。それを日々積み重ねなければ、世界との差は広がる一方でしょう。直近に小さな目標を一つ一つ設定し、最終目標の金メダル獲得達成へ向けて強化するためには、各選手の具体的な環境の整備、支援、及び強化トレーニングが必要と思われます。

## ③メディカル（トレーナー等）面における評価と課題



今回のアジア大会に向けて、第1回強化合宿からトレーナー2名を帯同させました。

そして、初めてアジア大会にトレーナー1名を帯同させました。公式練習にて、足首を捻挫してしまった選手がいましたが、まだ緊張感があつたため、大丈夫と思われました。しかし練習終了した後、足首に違和感があり、痛み始めたため、トレーナーによる応急手当を行い、アイシングしました。

トレーナーによる応急手当が良かったため、数日のうちに動けるようになり、メダル獲得できました。もしトレーナーがいなかったらどうなったのかわかりませんでした。但しそのトレーナーは手話できなかったため、筆談となりました。

今後はそのトレーナーに必要な手話を教えてコミュニケーション向上させたいと思います。

他に今年から初めてメンタル専門のトレーナーを強化合宿に参加させましたが、今後の大会に向けてどう活かすか検討したいと思います。

## 日本ろう者テニス協会

尾形 滋子 (マネージャー)

梶野 千賀子 (事務局長)

### ①成績一覧

#### ◆女子シングルス

- ・豊田 恵子…2回戦敗退
- ・村山奈留美…2回戦敗退
- ・山口 華恵…1回戦敗退
- ・大河内 香…1回戦敗退

#### ◆男子シングルス

- ・梶下 怜紀…金メダル
- ・親松 直人…銀メダル
- ・鈴木 裕将…銅メダル
- ・松下 哲也…銅メダル

#### ◆女子ダブルス

- ・豊田&村山…銅メダル
- ・大河内&山口…1回戦敗退

#### ◆男子ダブルス

- ・親松&鈴木…1位
  - ・梶下&松下…2位
- (参加国数によりメダルなし)

#### ◆ミックスダブルス

- ・松下&豊田…1回戦敗退

- ・親松&村山…銀メダル
- ・鈴木&大河内…1回戦敗退
- ・梶下&山口…銅メダル

### ②競技面における評価と課題

#### 「強化スタッフ」

今年度からプロコーチ・トレーナーを契約しチームを結成しました。そして、6月合宿からダブルス戦に向けて本格的に始動し、9月まで厳しい指導と体調管理など大会直前までスタッフと選手が情報共有強化も含めて調整していきました。テニス競技は心理面、体力面、集中力を鍛える事も大事です。

今年度は合宿地の実業団・学生選手やコーチと試合・練習と多く実施することが出来ました。今までは予算が厳しくボランティアで協力してくださる方々を探す事が大変でした。メダル獲得の目標を果たすためにはそれなりに選手にも負担がかかりますが、選手のモチベーションと技術向上を目指すためには強化費は不可欠です。

その結果、男子選手全員がアジアブロックでトップに立つことが出来ました。女子選手はまだまだ遅れをとっていますので、今後の強化事業を改正する必要があります。

#### 「コーチ」

選手のスキルも大切ですが、ダブルスなども含めたチームプレイで成果が変わるので、メンバーの団結力が必要です。メダル獲得に向け団結力を高める事が必要と感じ、合宿などで話してきました。スタッフ一同アジア大会に力を入れていることは、メンバーに伝わり団結力もアップしてきました。静岡合宿ではメンタルに不安を感じる事もありましたが、最後の大阪合宿ではかなりチームの団結力も上がったと思いました。

試合が始まり、初日から好発進でした。練習してきた事をしっかり出して勝利する事、猛暑の中相手の棄権はありましたが、日本チームは全員、最後の1ポイントまで諦めない強い気持ちで戦い抜きました。合宿の成果がでていました。佐野村トレーナーのおかげで暑さと湿度に対する準備も万全でした。

この大会でメダルを獲得する強い気持ちは、オーストラリアでも中国、インド、台北でもありません。日本が1番でした。かなりの温度差を感じました。大会期間中の練習、トレーニン

グ、試合前後の身体のケア、何をとっても日本が優れていました。この姿勢は、アジアの各国に多大なる影響を与えたと思います。次のアジア大会は他国も力を入れて来ると思います。アジア大会は通過地点でしかないと思いデフリンピックに目標を切り替えたいと思います。

デフリンピックのメダル獲得は、アジア大会より困難です。ここからはスタッフ、選手一同さらに心・技・体を磨き努力をしないと世界に通用しないと思います。与えられた時間をトレーニングに費やして練習あるのみです。デフリンピックのメダル獲得に向け準備を始めないといけません。選手には合宿で話したように、気持80%、技術15%、ラッキー5%で日々の練習に取り組んで欲しいと願います。

アジア大会の開会式もたいへん素晴らしいものでした。開催国である台北はメダル獲得数もトップでした。こういう素晴らしい大会を日本で実現できればと思います。

日本政府の力を借りないと実現はならないと思いますが、叶う事であれば、東京パラリンピックの後、デフリンピックが開催されればと思う次第です。コーチとしてアジア大会に参加出来たことを誇りに思います。

### ③メディカル（トレーナー等）面における評価と課題

この度、第8回アジア太平洋ろう者競技会のテニス競技にトレーナー（アスレティックトレーナー（Athletic trainer：以下、AT））として帯同させていただきました。国際ろう者競技会およびテニス競技のATとしての帯同は初めてでありました。最初はトレーナーとして指名をいただくまでに、デフテニス競技そのものや本競技会に出場する選手、スタッフの方々との普段の交流（国内で開催されている数々の試合や各種イベントなどでの交流）が十分行われていない状態でのスタートとなり、ATとしてどこまでサポートが出来るのか不安でした。本競技会への帯同前に、出場選手、コーチ、監督、マネージャースタッフの皆さんとのコミュニケーションを計るとともに、ATとして帯同に向けた準備のため、今年度国内で開催された強化合宿などに計4回参加させていただきました。

まずは現在の選手の身体の状態やコンディションなどについて確認させていただく為にサ

ポートカードを作成し、既往歴や現在の身体の状態などの基本的な情報を確認させていただきました。そしてコンディショニングチェックシートを作成し、日々の体調や競技意欲、食欲や睡眠時間などのコンディションの確認を本競技会帯同前に開催された2回の合宿期間中に毎日行わせていただきました。

帯同前、現地での選手のコンディショニングに関して最も気になった点は、台湾の気温と湿度の高さです。台湾桃園市（テニス競技会場である台湾国立体育大学がある市）の予想最高気温約30℃、本大会に出場する選手と全スタッフのグループで構成されたコミュニケーションツール「LINE」などを用いて現地の最高気温や湿度などの気象情報を伝えるようにしました。また、9月21日と22日に大阪で行われた最終合宿のミーティングでは、現在の台湾桃園市と東京・大阪の最高気温や湿度の違いについて、競技期間中の現地の気象予報などについて資料を作成して説明しました。そして出発数日前にも「LINE」を用いて現地の気象情報などを伝えました。これらの事前準備によって、高温・高湿度に対する心の準備は出来たのではないかと考えています。その他、合宿時のミーティングで競技期間中のコンディショニングについて、台湾での食事や水（香辛料の強い食事による胃腸の不調の注意や水道水の飲水禁止など）、捕食、体重コントロール、睡眠などについて説明させていただきました。また、ストレッチングや用具を用いた身体のケアの方法などについて、実際の用具などを用いて説明させていただきました。

以上の内容（準備）を4回の合宿で行い、いよいよ日本を出発して現地に着いて最初に感じたことは、やはり湿度が高いことでした。

そして現地入りして3日目の練習日では、テニスコート（アスファルト）上の最高気温36℃、湿度60%を記録（筆者が持参したWBGT（Wet bulb globe temperature（湿球黒球温度））計（京都電子工業株式会社、熱中症指針計にて約1時間毎にWBGT、気温、湿度を測定）し、予想以上の気温の高さを示し、そして予想以上の湿度の高さによる不快感を覚えしました。また、大会初日（帯同4日目）は、競技期間中最も高い39℃を記録しました。その対

策として、練習や試合時において、早めのスポーツドリンクなどによる（ナトリウムを含んだ）水分摂取と身体の疲労しやすい箇所や筋肉痛などを起こしやすい箇所の早めのタイミングでのアイシングの実施です。特に競技期間中は、試合間においてビタミンCやクエン酸の摂取を目的として、100%オレンジジュースもしくは100%グレープフルーツジュースを積極的に摂るように促しました。また、朝食や夕食においてもグレープフルーツなどの柑橘系果物を摂るように話しました。帯同期間中のその他の主なサポートとしては、ウォーミングアップやクーリングダウンの実施、テーピング、ストレッチなどによる身体のケアやコンディションチェック、そして合宿時に行ったコンディションチェックシートによるコンディションの確認などでした。

結果的に競技期間中に大きな怪我や病気など

を発生することなく選手皆さんが試合に出場できたことを本当に良かったと思っています。さらに競技結果として、金メダル2つ、銀メダル2つ、銅メダル3つの計7つのメダルを獲得し、日本チームの目標メダル数5個を上回ることができたことを本当に嬉しく思います。

帯同中の主な反省点としては、全ての選手のコンディションの把握が十分に行えなかったこと、そしてATとすべてのスタッフ間の報告・連絡などが完全ではなかったことです。この最大の要因は、私が手話のごく僅かしか出来なかったことによります。これらの反省点を今後の課題として、少しでも改善出来るように努めていきたいと思っています。帯同前の合宿や本競技会の帯同で経験させていただいたことを、今後のデフテニス競技にさらに活かされるように精進していきたいと思っています。

# 資料





連本第 150064 号  
2015 年 5 月 7 日

担 当 医 師 様

東京都新宿区山吹町 130 SK ビル 8 階  
TEL 03(3268)8847 FAX 03(3267)3445  
一般財団法人全日本ろうあ連盟  
スポーツ委員会委員長 太田陽介  
(公印省略)

### 第 8 回アジア太平洋ろう者競技大会 聴力検査のご協力依頼

時下ますます清栄のこととお慶び申し上げます。

2015 年 10 月 3 日～11 日に第 8 回アジア太平洋ろう者競技大会が台湾・桃園にて開催されます。標記大会を含む、国際ろうスポーツ委員会 (International Committee of Sports for the Deaf) 公認の競技大会 (夏季/冬季デフリンピック、世界選手権大会、地域の選手権大会を含む) は選手の参加資格として、「両耳の聴力が少なくとも 55 デシベル以上 (500、1000、2000 ヘルツの三周波数の平均、1969 年アメリカ国家規格 (ANSI) による) の聴力損失と判断されたろう者」であることが条件となっております。そのため医師の診断による聴力検査図の提出が義務付けられておりますので、聴力検査の実施をお願い申し上げます。

#### <検査内容>

それぞれの耳について下記検査内容のご記入をお願い致します。

1. 気導 2. 骨導 3. ティンパノグラム 4. 耳小骨筋反射 (直訳すると音響的反射となりますが、日本では耳小骨筋反射か、アブミ骨筋反射という。英語の別名を stapedius reflex.)

検査結果を所定用紙にご記入のうえ選手にお渡し下さい。

又、《見本》を別紙の通りご用意いたしましたので、ご参考になさってください。

#### <参 考>

- 聴力検査図 (ダウンロード用) <http://www.deaflympics.com/pdf/AudiogramRegulations.pdf>
- 聴力検査図 (見本)
- 国際ろうスポーツ委員会公式ホームページ <http://www.deaflympics.com/>
- オーディオグラムに関する規則 <http://www.deaflympics.com/pdf/AudiogramRegulations.pdf>

(お問い合わせ)

一般財団法人全日本ろうあ連盟 スポーツ委員会事務局  
〒162-0801 東京都新宿区山吹町 130 SK ビル 8F  
TEL 03-3268-8847 FAX 03-3267-3445  
E-mail : [jfd-sc@ifd.or.jp](mailto:jfd-sc@ifd.or.jp)  
担当 : 後藤・加茂下

以上

#### 【オーディオグラムに関する規則：参加資格に関する規則より抜粋】

- \* 良聴耳の平均聴力レベルが 55dB 以上の聴覚障害を有する (500、1000、2000 ヘルツの三つの純音における気導の平均聴力レベル、ISO1969 基準) ろう者であること。
- \* 加盟団体である全国的な組織の会員であり、その国の国民であること。

選手は、競技中、あらゆる補聴器、補聴援助機器もしくは人工内耳のスピーチプロセッサ等対外装置を使用してはならない。スポーツ競技において、(補聴器など) 音を増幅する装置の使用が有利に作用することは明らかである、そのため、競技中は使用が禁止されている。

#### 【オーディオグラムに関する規則：第 1 条定義およびろう者であることの証明より抜粋】

1. 4  
すべてのオーディオグラムは以下の項目に関し、それぞれの耳について記入されなくてはならない。
  1. 気導 2. 骨導 3. ティンパノグラム
  4. 耳小骨筋反射 (直訳すると音響的反射となりますが、日本では耳小骨筋反射か、アブミ骨筋反射という。英語の別名を stapedius reflex.)

要件を満たさない場合には、承認が遅れることになる。

#### 【オーディオグラムに関する規則：第 2 条オーディオグラムの承認手続きより抜粋】

2. 1. 2  
いかなる ICSD 認可の競技 (夏季/冬季デフリンピック、世界選手権大会、地域の選手権大会を含む) においても、競技の 3 ヶ月前には新しいオーディオグラムが提出されなくてはならない。



International Committee of Sports for the Deaf  
Recognized by the International Olympic Committee

528 Trail Avenue  
Frederick, Maryland 21701  
UNITED STATES  
Fax: +1 301 620 2990  
Email: [controls@iciss.org](mailto:controls@iciss.org)

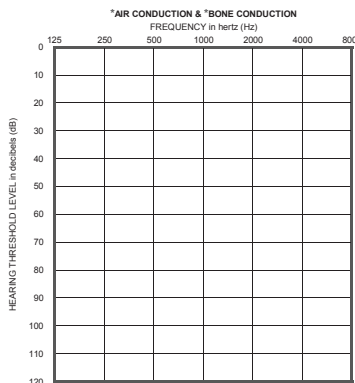
### OFFICIAL AUDIOGRAM DATA SHEET

\*Required Fields PLEASE PRINT OR USE TYPEWRITER and send to your National Deaf Sports Federation for review

\*Name: Family Name (Last Name) Given Name (First Name) Other Names (Middle Name)  
\*Nation: \_\_\_\_\_ \*Sport: \_\_\_\_\_  
\*Date of Birth: (day / month / year) \*Which event?  Regional Championships  
 World Championships  
 Deaflympics  
\*Gender:  Male  Female

### AUDIOGRAM

\*Audiometer: \_\_\_\_\_ \*Examiner Name: \_\_\_\_\_  
\*Calibration:  ANSI 1969  ISO 1964 \*Date of Examination: (day / month / year)  
 Other: \_\_\_\_\_



Ear	*IMPEDANCE TYMPANOMETRY			
	Canal Vol.	Peak Comp.	Gradient	Pres. Peak
RIGHT				
LEFT				

Ear	*REFLEXOMETRY Side Equals Probe Ear			
	Stim	500	1000	2000   4000
RIGHT	Ipsi			
	Contra			
LEFT	Ipsi	500	1000	2000 4000
	Contra			

Ear	PURE TONE AVERAGE (500-1000-2000 Hz)		
	Air	Bone	
RIGHT			
LEFT			

KEY TO SYMBOLS				
Ear	Air	Air-masked	Bone	Bone-masked
RIGHT (red)	O	△	<	(
LEFT (blue)	X	□	>	)
			No Response	NR

Ear	TYPE OF HEARING LOSS (Check one for each ear with an "X")			
	Sensori-neural	Conductive	Mixed	Cochlear Implant
RIGHT				
LEFT				

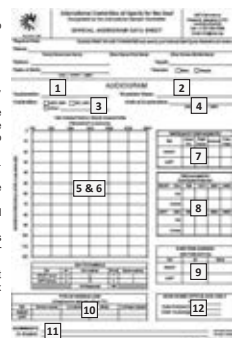
COMMENTS: \_\_\_\_\_  
(In English) \_\_\_\_\_  
Autogram Form  
Revised: 6 / 2011  
[www.deaflympics.com/forms/audiogram.pdf](http://www.deaflympics.com/forms/audiogram.pdf)

Notes for the audiologist:

Thank you for using the ICSD audiogram form. Our athletes need to complete this form fully to receive an identification number to participate in upcoming Championship or Deaflympics events.

In compliance with ICSD audiogram regulations, here is a guideline for you to complete the ICSD audiogram form, as listed below:

1. Official ICSD Audiogram form must be used. The form can be downloaded from [www.deaflympics.com/forms/audiogram.pdf](http://www.deaflympics.com/forms/audiogram.pdf)
2. All four (4) types of audiogram testing below must be filled out entirely for EACH ear including:
  1. Air Conduction - Please test on 500, 1000, and 2000Hz.
  2. Bone Conduction - Please test on 500, 1000, and 2000Hz.
  3. Tympanograms (Tympnometry) - Please write numbers
  4. Acoustic Reflexes (Reflexometry) - Please write numbers or NR if there are no responses. Do not use dash mark (-) or zero (0).
3. Below yellow box with numbers indicates required fields for you to enter:
  1. Audiometer - Identify the name of the audiometer.
  2. Examiner Name - Name of the audiologist who performs the test.
  3. Calibration - Indicate the name of the calibration used.
  4. Date of Examination - Enter examination date.
  5. Air Conduction - Record air testing results. See 2.1 above. If there are no responses in Air Conduction, please write NR as noted in "Key to Symbols".
  6. Bone Conduction - Record bone testing results. See 2.2 above. If there are no responses in Bone Conduction, please write NR as noted in "Key to Symbols".
  7. Tympanometry - Record Tympanometry test results. See 2.3 above.
  8. Reflexometry - Record Reflexometry test results. See 2.4 above.
  9. Pure Tone Average - Add 500, 1000, 2000Hz and divided by three (3) for both air and bone testing results.
  10. Type of Hearing Loss - Identify the type of hearing loss by placing "X" accordingly as shown on the form for respective ear.
  11. Comments - Please write comments as needed about this athlete. If there are no Tympanogram or reflex equipments to test, please write comments in English.
  12. This is for ICSD official uses only, do not write.



Failure to observe the requirements will result in delayed approval.

Thank you in advance for your cooperation,  
ICSD Staff

As of May 2011

聴覚検査士のみさまへ：

ICSDのオーディオグラム用紙をご利用ください。われわれの選手は、選手権大会、デフリンピック等の大会に出場するため、この書類を完全に記入し、ID番号を得る必要があります。

以下は、ICSDオーディオグラム規則に則った、ICSDオーディオグラム用紙の記入ガイドラインです。

1. ICSD公式オーディオグラム用紙の記入が必須です。用紙は以下のサイトからダウンロードできます。  
[www.deaflympics.com/forms/audiogram.pdf](http://www.deaflympics.com/forms/audiogram.pdf)

- 以下の4種類のオーディオグラム検査は、**両耳**について、完全に記載しなければなりません。
  - 気導 - 500、1000、および2000Hzの検査を行ってください。
  - 骨導 - 500、1000、および2000Hzの検査を行ってください。
  - ティンパノグラム (ティンパノメトリー) - 数値を記載してください。
  - 耳小骨筋反射 (アブミ骨筋反射) - 数値、もしくは、反応がない場合はNRと記載してください。ダッシュ (-) もしくはゼロ(0)を使って記入しないでください。

3. 以下の黄色い四角で囲んだ番号は、必須記載項目です。

1. **オーディオメーター** - オーディオメーターの名称を明記してください。
2. **検査者氏名** - 検査を行った、聴覚検査士の名前を記入してください。
3. **キャリブレーション** - 使用したキャリブレーションの名称を明記してください。
4. **検査日** - 検査を行った日を記入してください。
5. **気導** - 気導検査の結果を記録してください。上記2.1を参照のこと。気導検査の応答がない場合、「記号凡例 (Key to Symbols)」に従って、NRと記入してください。
6. **骨導** - 骨導検査の結果を記録してください。上記2.2を参照のこと。骨導検査の応答がない場合、「記号凡例」に従って、NRと記入してください。
7. **ティンパノメトリー** - ティンパノメトリーの検査結果を記録してください。上記2.3を参照のこと。
8. **耳小骨筋反射** - 耳小骨筋反射の検査結果を記録してください。上記2.4を参照のこと。
9. **聴導検査** - 500、1000、2000Hzの項目を追加し、気導と骨導両方の検査結果を、それぞれ記入してください。
10. **失聴のタイプ** - 失聴の種類を確認し、それぞれの耳について、該当する欄に「X」を記入してください。
11. **コメント** - 必要に応じて、当該選手についてコメントを記入してください。ティンパノグラム、もしくは耳小骨筋反射の検査器具がない場合、コメントを英語で記載してください。
12. この欄は記入しないでください。ICSD事務局のみが使用します。

**必須事項の確認もれは、承認の遅れという結果を招きます。**

ご協力ありがとうございます。  
ICSDスタッフ

2011年5月現在

**International Committee of Sports for the Deaf**  
Recognized by the International Olympic Committee  
**OFFICIAL AUDIOGRAM DATA SHEET**

PLEASE PRINT OR USE TYPEWRITER and send to your National Deaf Sports Federation for review

Name: **YAMABUKI Taro**  
Family Name (Last Name): **Taro** Given Name (First Name):  
Other Name (Middle Name):  
Nationality: **JAPAN** Sport: **LACROSSE**  
Date of Birth: **28 / 3 / 1926** (day / month / year) Gender:  Male  Female

**AUDIOGRAM**  
Audiometer: **RION AA-76** Examiner Name: **Kanako YUZA**  
Calibration:  ANSI Z39.1  ISO 389  Other: **ISO 389-3 (1996)** Date of Examination: **7 / 5 / 2012**  
(day / month / year)

**AIR CONDUCTION & BONE CONDUCTION**  
FREQUENCY in Hz (Hz) 125 250 500 1000 2000 4000 8000  
HEARD THRESHOLD LEVEL in meters (dB) 20 30 40 50 60 70 80 90 100 110 120

**IMPEDANCE (TYMPANOGRAM)**  
Ear Canal Imp. Peak Curve  
RIGHT 210 142 0.42 64  
LEFT 2.6 1.83 0.45 58

**REFLEXOMETRY**  
Date Results Probe Ear  
RIGHT Size 100 100 100 100  
Curve 100 100 100 100  
LEFT Size 100 100 100 100  
Curve 100 100 100 100

**PURE TONE AVERAGE**  
(500-2000 Hz)  
Ear Air Bone  
RIGHT 106 35dB 70dB  
LEFT 112 5dB 79dB

**KEY TO SYMBOLS**  
Ear Air Bone Air conduct Bone conduct  
RIGHT (dB) 0 0 0 0  
LEFT (dB) 0 0 0 0  
No Response NR

**TYPE OF HEARING LOSS**  
Check one for each ear with an 'X'  
Ear Sensorineural Conductive Mixed Cochlear implant  
RIGHT       
LEFT

**ICSD HOME OFFICE USE ONLY**  
ID: \_\_\_\_\_  
Data Entered By: \_\_\_\_\_  
ICSD Audiologist: \_\_\_\_\_

COMMENTS: **Complete bilateral sensorineural hearing loss**  
**USA ENT CLINIC 3-67 Evergreen, Mahe City, Oklahoma**  
Masaharu URA MD  
TEL 011-871-4236  
FAX 011-871-4111

-22-

山吹太郎 (33) 男

TYMPANOGRAM  
PUTTING IN CONJ. PERIDAPAL  
1.2 1.2  
0.9 1.2

REFLEX  
NAME: 山吹太郎 (33) 男 09/03/09  
COMP. Cal: PRES. (daPa)  
R 1.2 -2  
L 1.1 -1

平均閾値レベル  
気導 骨導  
500 (106, 7) dB (112, 5) dB (108, 3) dB  
1000 (111, 7) dB (112, 5) dB (113, 3) dB

マスキングレベル (dB)  
気導 骨導  
125 250 500 1000 2000 4000 8000  
R OFF OFF OFF OFF OFF OFF OFF  
L OFF OFF OFF OFF OFF OFF OFF

-23-

連本第 150315 号  
2015 年 8 月 31 日

第 8 回アジア太平洋ろう者競技大会  
参加競技団体 各位  
参加選手 各位

一般財団法人全日本ろうあ連盟  
スポーツ委員会  
委員長 太田陽介

**第 8 回アジア太平洋ろう者競技大会 (於台湾・桃園) 参加に伴う  
基本健康調査用紙および診断書の提出について**

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第 8 回アジア太平洋ろう者競技大会に出場する選手におかれましては、下記の書類のご提出をお願いいたします。

様式 1 「基本健康調査用紙」は選手本人が記入をしてください。様式 2 「診断書」は最寄りのクリニックや病院にて作成をお願いしてください。その際、記入済みの様式 1 「基本健康調査用紙」を持参し医師の診断を受けてください。

誠に申し訳ございませんが、診断書の作成にかかる費用は自己負担となりますことをご了承くださいますようお願いいたします。また、記載漏れは一切認められません。この資料は、現地において選手の安全、健康管理上、重要な書類であることをご理解ください。

なお、帯同医師による内容チェックの結果、担当の医師より指導が入る場合がありますことをご承知頂きますようお願いいたします。

記

- 1 提出書類
  - 1) 様式 1 基本健康調査用紙 (本人が記入)
  - 2) 様式 2 医師診断書 1・2 (医師が記入)  
様式 1 を用いて診断を受け、医師が記入したものを提出してください。  
**様式 1 の記載漏れは認められません。**
  - 3) 様式 3 コミュニケーション状況調査用紙

2 提出方法 上記すべてを各競技団体にて取りまとめの上、郵送にて提出をお願いいたします。

3 提出先  
 一般財団法人全日本ろうあ連盟 スポーツ委員会 事務局  
 〒162-0801  
 東京都新宿区山吹町130 SKビル8F  
 一般財団法人全日本ろうあ連盟本部事務所内  
 TEL 03-3268-8847 FAX 03-3267-3445  
 担当: 岡安・加茂下 (jfd-sc@jfd.or.jp)

4 提出期限 **2015 年 9 月 24 日 (木) 必着**

以上

第 8 回アジア太平洋ろう者競技大会  
参加競技団体 各位  
参加スタッフ 各位

一般財団法人全日本ろうあ連盟  
デフリンピック派遣委員会  
事務局長 太田陽介

**第 8 回アジア太平洋ろう者競技大会（於台湾・桃園）参加に伴う  
基本健康調査用紙および診断書の提出について**

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
第 8 回アジア太平洋ろう者競技大会のスタッフは、下記の書類のご提出をお願いいたします。  
健康診断書については、最寄りのクリニックや病院にて受診の上、作成をお願いして下さ  
い。誠に申し訳ございませんが、診断書の作成にかかる費用は自己負担となりますことをご了  
承くださいますようお願いいたします。この資料は現地において選手団の安全、健康管理上、  
重要な書類であることをご理解ください。  
なお、帯同医師の内容チェックの結果、医師より指導が入る場合がありますことをご承知  
頂けますようお願いいたします。

記

- 提出書類
  - 健康診断書  
2014 年 9 月 1 日以降に受けた健康診断書（職場等で実施したものも可）のク  
ピーを提出してください。9 月 1 日以降に健康診断を受けていない場合は、新  
たに保健所などで健康診断を受けてください。  
**診断項目は通常受けている物で問題ありません。（決まった様式はありませ  
ん）**
  - 様式 3 コミュニケーション状況調査用紙 ※聴覚障害者スタッフ対象
- 提出方法 上記すべてを各競技団体に取まとめの上、郵送にて提出をお願いいた  
します。
- 提出先 

一般財団法人全日本ろうあ連盟	スポーツ委員会 事務局
〒162-0801	
東京都新宿区山吹町130 SKビル8F	
財団法人全日本ろうあ連盟本部事務所内	
TEL 03-3268-8847 FAX 03-3267-3445	
担当：岡安・加茂下 (jtd-sc@jtd.or.jp)	
- 提出期限 **2015 年 9 月 24 日（木）必着** 以 上

**基本健康調査用紙**

(2014/5/2)

選手の皆様をお願いします。  
皆様の健康を守るための調査用紙なので、できる限り正確に記載して下さい。  
医師の診察を受ける前に、Q1～Q11までの質問にお答え下さい。わからない  
場所は診察の時に、医師が問い合わせますので、記入しなくて結構です。

医師にお願い致します。

選手が記入するこの表紙よりQ1～Q11までの回答状況をチェックし、必要  
があれば詳しく聞いて記載して下さい。

選手氏名： \_\_\_\_\_ 性別：男・女  
生年月日：昭和・平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 年齢： \_\_\_\_\_ 歳  
所 属： \_\_\_\_\_ 学年： \_\_\_\_\_ 年生  
住 所：〒 \_\_\_\_\_

電 話： \_\_\_\_\_ ( ) \_\_\_\_\_ Fax： \_\_\_\_\_ ( ) \_\_\_\_\_  
E-mail：(PC) \_\_\_\_\_ (携帯)

競技名： \_\_\_\_\_ 競 技 歴： \_\_\_\_\_ 年  
クラス分け： \_\_\_\_\_ 種目（階級・ポジション）： \_\_\_\_\_

障がい名：《該当する障がい名に○をつけて下さい。また具体的な手帳の  
障がい内容がわかれば（ ）内に記載して下さい》

- ① 肢体不自由 ( )
- ② 視覚障がい ( )
- ③ 聴覚障がい ( )
- ④ 知的障がい ( )
- ⑤ 内部障がい（心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう・直腸、小腸、肝臓、  
免疫機能障がい）

障がいの原因となった傷病名： \_\_\_\_\_

障がいの原因となった傷病の発病（受傷）日： \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

障がいの原因となった傷病の発病（受傷）時年齢： \_\_\_\_\_ 歳

障がいの原因となった傷病に関する手術歴：（有、無）

有の場合 → \_\_\_\_\_ 歳： [手術名…]  
\_\_\_\_\_ 歳： [手術名…]  
\_\_\_\_\_ 歳： [手術名…]

本調査用紙・診断書は、公益財団法人日本体育協会作成の団体参加選手のメディカルチェック用診断用紙の一部を障がい者用に  
改良して使用しております。（2014年5月2日現在）

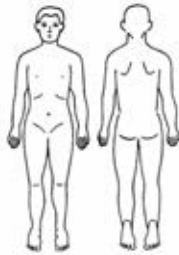
**Q1. 障がいの原因となった傷病以外のこれまでの主な病気・ケガについての質問**

Q1-1：これまでに以下の病気をしたことがありますか。  
“ない”場合には（ ）内に×印、“ある”場合には（ ）内に○印を付け、その  
ケガをした時の年齢を \_\_\_\_\_ 部に記入、身体図にケガの場所に○を付けて下さ  
い。

- |                     |                        |
|---------------------|------------------------|
| 1) 貧血 ( ) _____ 歳   | 2) 喘息 ( ) _____ 歳      |
| 3) 高血圧 ( ) _____ 歳  | 4) 心臓病 ( ) _____ 歳     |
| 5) 川崎病 ( ) _____ 歳  | 6) 腎炎 ( ) _____ 歳      |
| 7) 肝炎 ( ) _____ 歳   | 8) 胃十二指腸潰瘍 ( ) _____ 歳 |
| 9) てんかん ( ) _____ 歳 |                        |
| 10) その他 ( ) _____ 歳 | [病名] _____             |
|                     | [病名] _____             |
| 11) 手術 ( ) _____ 歳  | [病名] _____             |
|                     | [病名] _____             |
|                     | [病名] _____             |
|                     | [病名] _____             |
|                     | [病名] _____             |
| 12) 輸血 ( ) _____ 歳  | [病名] _____             |
| 13) 薬物アレルギー _____   | [薬物名] _____            |
|                     | [薬物名] _____            |
| 14) 食物アレルギー _____   | [食品名] _____            |
|                     | [食品名] _____            |

Q1-2：これまでに2週間以上競技や練習の  
支障となる“ケガ”をしたことがあ  
りますか。  
ない・ある ( \_\_\_\_\_ 歳)

“ある”場合には、右の身体図にケガの場所に  
○を付けて下さい。



Q1-3：これまでに練習中や試合中に意識を失ったことがありますか。  
ない・ある ( \_\_\_\_\_ 歳)

本調査用紙・診断書は、公益財団法人日本体育協会作成の団体参加選手のメディカルチェック用診断用紙の一部を障がい者用に  
改良して使用しております。（2014年5月2日現在）

**Q2. 現在の病気やケガについての質問**

Q2-1：現在、治療中、検査を受けている病気やケガ、障がいがありますか。

ない・ある [病名・障がい名] \_\_\_\_\_  
[病名・障がい名] \_\_\_\_\_  
[病名・障がい名] \_\_\_\_\_

Q2-2：普段使用している薬がありますか。

ない  
ある：<①常用（毎日使用）、②頓用（時々使用）、③常用+頓用>  
※ “ある”場合は後日配布する『使用薬物についての調査書』に記載して下さい

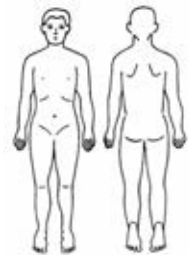
Q2-3：普段使用している健康食品、栄養剤、ビタミン剤、滋養強壮剤（ドリンク剤）  
などがありますか。

ない  
ある（“ある”の場合は、下記に記入して下さい）  
品 名 \_\_\_\_\_ メーカー名 \_\_\_\_\_ 使用頻度 \_\_\_\_\_ 使用量/日 \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_ (毎日・時々) \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_ (毎日・時々) \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_ (毎日・時々) \_\_\_\_\_

Q2-4：現在、競技や練習の支障となる“ケガ”をしていますか。

ない・ある

※（“ある”の場合は、右の身体図にケガの場所が  
わかるように○で印を付けて下さい。また  
具体的なケガの内容がわかれば病名の記載も  
お願いします）



本調査用紙・診断書は、公益財団法人日本体育協会作成の団体参加選手のメディカルチェック用診断用紙の一部を障がい者用に  
改良して使用しております。（2014年5月2日現在）



【様式5-1】  
選手記入

Q3: 自覚症状についての質問

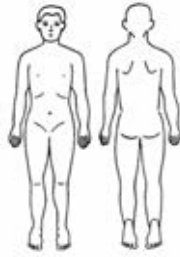
( )内"ない"場合には×印, "ある"場合には○印, わからない場合には?印を付けて下さい。

1. 全般

- |                   |                       |
|-------------------|-----------------------|
| 1) 記憶が低下してきた ( )  | 2) 練習についていけない ( )     |
| 3) 練習がこなせない ( )   | 4) 楽にできた練習がきつくなった ( ) |
| 5) 練習意欲がわからない ( ) | 6) 疲れやすい ( )          |
| 7) 疲労がたまっている ( )  | 8) 体がだるい ( )          |
| 9) 力が入らない ( )     | 10) たたくらみがひどい ( )     |
| 11) 風邪をひきやすい ( )  | 12) 体重の変動が大きい ( )     |
| 13) 体重が減少している ( ) | 14) 体重が増加している ( )     |
| 15) 寝付きがわるい ( )   | 16) 熟睡できない ( )        |
| 17) 早く目が覚める ( )   | 18) 朝起きるのがつらい ( )     |

2. 皮膚 (右の身体図に問題のある場所に○印を付けて下さい)

- 1) 褥瘡 ( )
- 2) アトピー性皮膚炎 ( )
- 3) みずむし ( )
- 4) じんましん ( )
- 5) その他 ( )



3. 頭部

- 1) 外傷 ( )
- 2) 頭痛 ( )
- 3) その他 ( )

4. 眼

- |             |                 |             |
|-------------|-----------------|-------------|
| 1) 近視 ( )   | 2) 乱視 ( )       | 3) 視野異常 ( ) |
| 4) 眼鏡 ( )   | 5) コンタクトレンズ ( ) | 6) 痛み ( )   |
| 7) かゆみ ( )  | 8) めやに ( )      | 9) 異物感 ( )  |
| 10) かすみ ( ) |                 |             |
| 11) その他 ( ) | 内容: _____       |             |

本調査用紙・診断書は、公益財団法人日本体育協会の国体参加選手のメディカルチェック用診断用紙の一部を譲り受け、用いて改変して使用しております。(2014年5月2日現在)

【様式5-1】  
選手記入

5. 耳

- |            |              |            |
|------------|--------------|------------|
| 1) 痛み ( )  | 2) 耳だれ ( )   | 3) 耳鳴り ( ) |
| 4) めまい ( ) | 5) 聴力障がい ( ) | ( )        |
| 6) その他 ( ) | 内容: _____    |            |

6. 鼻

- |            |             |           |
|------------|-------------|-----------|
| 1) 鼻水 ( )  | 2) 鼻づまり ( ) | 3) 鼻血 ( ) |
| 4) その他 ( ) | 内容: _____   |           |

7. のど

- |               |              |              |
|---------------|--------------|--------------|
| 1) へんとう腺炎 ( ) | 2) のどの痛み ( ) | 3) しわがれ声 ( ) |
| 4) その他 ( )    | 内容: _____    |              |

8. 口腔

- |            |           |               |
|------------|-----------|---------------|
| 1) 虫歯 ( )  | 2) 歯痛 ( ) | 3) 歯ぐきの出血 ( ) |
| 4) その他 ( ) | 内容: _____ |               |

9. 頸部

- |              |               |            |
|--------------|---------------|------------|
| 1) リンパ節炎 ( ) | 2) 甲状腺の腫れ ( ) | 3) その他 ( ) |
| 4) その他 ( )   | 内容: _____     |            |

10. 呼吸器

- |               |            |             |
|---------------|------------|-------------|
| 1) せき ( )     | 2) たん ( )  | 3) ぜんそく ( ) |
| 4) 呼吸困難 ( )   | 5) 息切れ ( ) | 6) 喀血 ( )   |
| 7) 過換気症候群 ( ) |            |             |
| 8) その他 ( )    | 内容: _____  |             |

11. 循環器

- |            |            |            |
|------------|------------|------------|
| 1) どうき ( ) | 2) 胸痛 ( )  | 3) むくみ ( ) |
| 4) 心雑音 ( ) | 5) 不整脈 ( ) | 6) 高血圧 ( ) |
| 7) その他 ( ) | 内容: _____  |            |

本調査用紙・診断書は、公益財団法人日本体育協会の国体参加選手のメディカルチェック用診断用紙の一部を譲り受け、用いて改変して使用しております。(2014年5月2日現在)

【様式5-1】  
選手記入

12. 血管系

- |            |            |              |
|------------|------------|--------------|
| 1) 静脈瘤 ( ) | 2) 静脈炎 ( ) | 3) 血行障がい ( ) |
| 4) その他 ( ) | 内容: _____  |              |

13. 消化器系

- |             |             |            |
|-------------|-------------|------------|
| 1) 吐き気 ( )  | 2) 嘔吐 ( )   | 3) 胸やけ ( ) |
| 4) 消化不良 ( ) | 5) 食欲不振 ( ) | 6) 下痢 ( )  |
| 7) 便秘 ( )   | 8) 腹痛 ( )   | 9) 黄だん ( ) |
| 10) 痔 ( )   |             |            |
| 11) その他 ( ) | 内容: _____   |            |

14. 泌尿器

- |                |            |            |
|----------------|------------|------------|
| 1) 頻尿 ( )      | 2) 排尿痛 ( ) | 3) 血尿 ( )  |
| 4) 尿が濁りやすい ( ) | 5) 結石 ( )  | 6) 蛋白尿 ( ) |
| 7) 糖尿 ( )      |            |            |
| 8) その他 ( )     | 内容: _____  |            |

15. 血液

- |            |             |
|------------|-------------|
| 1) 貧血 ( )  | 2) 出血傾向 ( ) |
| 3) その他 ( ) | 内容: _____   |

16. 神経系

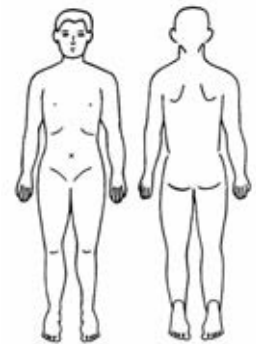
- |              |              |              |
|--------------|--------------|--------------|
| 1) けいれん ( )  | 2) てんかん ( )  | 3) めまい ( )   |
| 4) 知覚障がい ( ) | 5) 失神 ( )    | 6) 意識障がい ( ) |
| 7) 運動障がい ( ) | 8) 記憶障がい ( ) |              |
| 9) その他 ( )   | 内容: _____    |              |

本調査用紙・診断書は、公益財団法人日本体育協会の国体参加選手のメディカルチェック用診断用紙の一部を譲り受け、用いて改変して使用しております。(2014年5月2日現在)

【様式5-1】  
選手記入

17. 運動器 (右の身体図に問題のある場所に○印を付け、対応する問題と線で結んで下さい)

- 1) 痙性 ( )
- 2) 不随運動 ( )
- 3) 拘縮・変形 ( )
- 4) 切断 ( )
- 5) 筋肉痛 ( )
- 6) 関節痛 ( )
- 7) 骨折 ( )
- 8) 脱臼 ( )
- 9) 捻挫 ( )
- 10) 肉離れ ( )
- 11) その他 ( )



Q4. 現在のコンディションについての質問

以下、いずれかに○印を付けて下さい。

練習意欲 : 1=旺盛 2=普通 3=なし 4=全くなし

睡眠 : 1=良好 2=普通 3=不良

食欲 : 1=旺盛 2=普通 3=低下

便通 : 1=良い 2=便秘 (1回/日) 3=下痢 (回/1日)

全般的体調: 1=極めて良い 2=良い 3=普通 4=悪い 5=最悪

選手のメモ: コンディションが悪い場合には、最近のトレーニング量が非常に多い、風邪をひいているなど思い当たる理由を記して下さい

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

本調査用紙・診断書は、公益財団法人日本体育協会の国体参加選手のメディカルチェック用診断用紙の一部を譲り受け、用いて改変して使用しております。(2014年5月2日現在)

【様式5-1】  
選手記入

Q5. 家族の病気になる質問

Q5-1: 両親兄弟・姉妹に、以下のような病気がありますか、一つ一つチェックして下さい。

□内に“ない”場合には×印、“ある”場合には○印と〔 〕内に誰であるかを記入して下さい。

- 1) 高血圧□ [ ] 2) 心臓病□ [ ] 3) 脳卒中□ [ ]
- 4) 糖尿病□ [ ] 5) 痛風□ [ ] 6) 結核□ [ ]
- 7) 肝炎□ [ ]
- 8) その他□ 病名: \_\_\_\_\_

Q5-2: 両親兄弟・姉妹が以下のような病気で死亡していますか、一つ一つチェックして下さい。

□内に“ない”場合には×印、“ある”場合には○印と〔 〕内に誰が何歳の時に死亡されたのかを記入して下さい。

- 1) 突然死□ [ ]、歳 [ ] 2) 高血圧□ [ ]、歳 [ ]
- 3) 心臓病□ [ ]、歳 [ ] 4) 脳卒中□ [ ]、歳 [ ]
- 5) 糖尿病□ [ ]、歳 [ ] 6) 痛風□ [ ]、歳 [ ]
- 7) 結核□ [ ]、歳 [ ] 8) 肝炎□ [ ]、歳 [ ]
- 9) その他□ [ ]、歳 [ ] 内容: \_\_\_\_\_

備考: 突然死とは、原因不明に急に(たとえば24時間以内)死亡すること。  
痛風とは、血液中の尿酸値が高く、足の親指などの全身の関節が痛くなる病気で。

Q6. 体重減量についての質問

Q6-1: 競技に際して体重減量はありますか:

1=なし 2=あり 減量前体重 \_\_\_\_\_kg、目標体重 \_\_\_\_\_kg

Q6-2: 上の質問で“あり”の場合

スムーズに減量できますか: 1=はい 2=いいえ

選手のメモ: サウナ、食事を極端に減らすなど、その具体的な減量方法を記入して下さい

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

本調査用紙・診断書は、公益財団法人日本体育協会作成の国体参加選手のメディカルチェック用診断用紙の一部を種がいが用に  
変更して使用しております。(2014年5月2日現在)

【様式5-1】  
選手記入

Q7. 女性の選手におたずねします

Q7-1: 初潮はありましたか:

1=なし 2=あり \_\_\_\_\_歳 \_\_\_\_\_ヶ月、あるいは小学校 \_\_\_\_\_年生 \_\_\_\_\_月ごろ  
中学校 \_\_\_\_\_年生 \_\_\_\_\_月ごろ  
高校 \_\_\_\_\_年生 \_\_\_\_\_月ごろ

Q7-2: 最終月経はいつでしたか:

1. 平成 \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日ごろ  
2. 既に閉経 ( \_\_\_\_\_歳頃)

Q7-3: 以下のいずれかに○印をして下さい(閉経されている方以外)

月経周期は: 1=規則的 2=不規則 3=無月経 ( \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月以來なし)  
月経出血量は: 1=多い 2=普通 3=少ない  
月経の痛みは: 1=ほとんどない 2=痛みはあるが、日常生活に支障なし  
3=日常生活に支障あるが、薬は使用しない  
4=日常生活に著しく支障あり、薬を使用する  
(薬剤名: \_\_\_\_\_)  
5=寝込む

Dr. メモ: どのように処置しているか、具体的に記入してください

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

本調査用紙・診断書は、公益財団法人日本体育協会作成の国体参加選手のメディカルチェック用診断用紙の一部を種がいが用に  
変更して使用しております。(2014年5月2日現在)

【様式5-1】  
選手記入

Q8. 心理面について(競技活動では、こころとからだは連動して実力を発揮します)

Q8-1: 競技の場面で心理的問題(課題)を感じたことがありますか。

1: ない 2: ある

Q8-2: “ある”場合に○をつけた方は、下記の事項にお答え下さい。

- 1. 「その時に専門家が身近にいましたか？」 → 「いた」「いない」
- 2. 「その時に専門家に相談しましたか？」 → 「した」「しない」

Q8-3: “ある”場合はどのような内容であるかを具体的に答えて下さい。また、その時にどのように解決したのかも書いて下さい。

※例えば、競技場面であがってしまい本来の実力がだせなかった など

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

Q8-4: 最近(この半年間)の生活で、「そうだな」と思い当たる項目の番号に○印をして下さい。

- 1. 落ち着かない
- 2. 集中できない
- 3. ゆうつだ
- 4. イライラする
- 5. やる気がでない
- 6. 何に対しても興味がもてない

本調査用紙・診断書は、公益財団法人日本体育協会作成の国体参加選手のメディカルチェック用診断用紙の一部を種がいが用に  
変更して使用しております。(2014年5月2日現在)

【様式5-1】  
選手記入

Q8-5: 最近(この半年間)の生活で、「そうだな」と思い当たる項目の番号に○印をして下さい。

- 1. 眠れない
- 2. 食欲がない
- 3. 頭が痛い
- 4. 肩がこる
- 5. 疲れがとれない
- 6. からだがだるい
- 7. めまいがする
- 8. おなかが張る

Q8-6: これまで競技を継続していた中で、専門家による心理サポートや相談が必要と感じたことがありますか。

1: ない 2: ある

Q8-7: “ある”場合はどのようなサポートが必要であったかを具体的ににお答え下さい。

※例えば、①競技方向上につながるメンタルトレーニングの指導  
②競技と仕事や学業の両立の事で問題を感じ、他の人にアドバイスを  
して欲しかった事など

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

Q9. 練習頻度について

過去6ヶ月間の平均練習頻度についてお答え下さい。

1: 週3回以上 2: 週1~2回程度 3: 月1~2回程度 4: 月1回未満

本調査用紙・診断書は、公益財団法人日本体育協会作成の国体参加選手のメディカルチェック用診断用紙の一部を種がいが用に  
変更して使用しております。(2014年5月2日現在)

【様式5-1】  
選手記入

Q10. 移動能力について

現在の移動能力についてお答え下さい。

- 1: 屋外歩行自立  
 1a: 歩行補助具(杖、装具、義足など)の使用なし  
 1b: 歩行補助具(杖、装具、義足など)を使用  
 2: 屋内歩行自立  
 2a: 歩行補助具(杖、装具、義足など)の使用なし  
 2b: 歩行補助具(杖、装具、義足など)を使用  
 3: 介助歩行  
 3a: 屋外介助歩行  
 3b: 屋内介助歩行  
 4: 車いす使用  
 4a: 普通型車いす駆動自立  
 4b: 車椅子移動介助  
 4c: 電動車いす  
 5: その他 ( )

Q11. 排尿方法について

現在の排尿方法についてお答え下さい。

- 1: 自排尿可能  
 1a: 排尿障害なく、正常排尿  
 1b: 自排尿可能であるが、一部症状あり薬物使用中  
 2: 排尿障がいあり、何らかの補助的排尿方法を用いている  
 2a: 収尿器使用  
 2b: カテーテル使用  
 2b-1: 留置カテーテル(膀胱瘻も含め)  
 2b-2: 自己導尿  
 2c: 集尿器、自己導尿の組み合わせ  
 2d: その他(内容: )

※ 自己導尿を行っている場合、使用しているカテーテル消毒液の名称がわかれば、該当するものに○をつけて下さい。

[ ① グリセリンBC液、② ハイアミン・グリセリン液、③ イソジン・グリセリン液、④ ザルコニ液 10%単体、⑤ オスパン 10%単体、⑥ ハイアミン液単体、⑦ 滅菌オリーブ油、⑧ その他(名称: )、⑨ 不明 ]

本調査用紙・診断書は、公益財団法人日本体育協会作成の国体参加選手のメディカルチェック用診断用紙の一部を障がい者用に改良して使用しております。(2014年5月2日現在)

【様式5-1】  
選手記入

Q12. 排便方法について

現在の排便方法についてお答え下さい。

- 1: 自己排便可能  
 1a: 障がいなし。  
 1b: 自己排便可能であるが、内服薬物使用  
 1c: 自己排便可能であるが、座薬使用  
 1d: 特殊な器具などが必要  
 (必要なもの: )  
 1d: 特殊な設備や便器などが必要  
 (必要なもの: )  
 2: 排便障がいあり、何らかの介助が必要  
 2a: 介助者は誰でも良い。  
 2b: 規定の介助者が必要  
 2c: 医療関係者の介助が必要  
 2d: その他 ( )

本調査用紙・診断書は、公益財団法人日本体育協会作成の国体参加選手のメディカルチェック用診断用紙の一部を障がい者用に改良して使用しております。(2014年5月2日現在)

【様式5-2】  
医師記入

診断書(1) (医師記入のこと)

氏名: \_\_\_\_\_ ; 生年月日: 昭・平 年 月 日

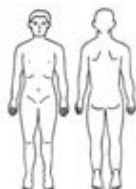
<現症>

身長: \_\_\_\_\_ cm 体重: \_\_\_\_\_ Kg 体温: \_\_\_\_\_ °C 脈拍: \_\_\_\_\_ 拍/分  
 血圧: \_\_\_\_\_ / \_\_\_\_\_ mmHg

理学的所見 (必要に応じて右の身体図を利用して下さい)

異常所見の有無 異常所見の内容

- 顔面 なし あり \_\_\_\_\_  
 口腔 なし あり \_\_\_\_\_  
 頸部 なし あり \_\_\_\_\_  
 胸部 なし あり \_\_\_\_\_  
 腹部 なし あり \_\_\_\_\_  
 四肢 なし あり \_\_\_\_\_



<臨床検査所見>

心電図検査	所見:	精査の必要(無・有)	
胸部X線	所見:	精査の必要(無・有)	
肺機能検査	所見:	精査の必要(無・有)	
尿検査	蛋白 ( ) 糖 ( ) 潜血 ( )		
血液検査	赤血球 ( ) ヘマトクリット ( ) 白血球 ( )		
	血小板 ( ) MCV ( ) MCH ( ) MCHC ( )		
生化学検査	AST (GOT) ( ) ALT (GPT) ( ) γ-GTP ( ) ALP ( )		
	LAP ( ) コリンエステラーゼ ( ) CK ( ) 中性脂肪 ( )		
	HDLコレステロール ( ) LDLコレステロール ( ) 総コレステロール ( ) 総蛋白 ( )		
	アルブミン ( ) 尿酸窒素 ( ) クレアチニン ( ) 尿酸値 ( )		
	血清鉄 ( ) 空腹時血糖値 ( ) HbA1c (NGSP) ( ) CRP ( )		
	Fe ( ) Na ( ) K ( ) Cl ( )		
	Ca ( ) P ( )		
	その他先生が重要と考えられる検査所見 ( )		

※異常値について、貴施設での正常値より低値の場合は「」、高値の場合は「」を付記して下さい。【例: AST(68)】

コメント備考欄 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_ 年 月 日 医療機関名・住所・電話番号

医師名: \_\_\_\_\_ 印

※ 本調査用紙・診断書は、公益財団法人日本体育協会作成の国体参加選手のメディカルチェック用診断用紙の一部を障がい者用に改良して使用しております。(2013年9月13日現在)

【様式5-2】  
医師記入

診断書(2) (医師記入のこと)

氏名: \_\_\_\_\_ ; 生年月日: 昭・平 年 月 日

※ その他、原疾患と合併症について御記載下さい。特に、選手の障がい内容や合併症などに応じて前頁検査項目以外の検査を施行されましたら、その結果の記載をお願い致します。

ご診断に基づき、以下の2点について適否のご意見をお願いいたします。ただし、最終決定については協会の医学委員会が行い、その責任を負います。率直なご意見を御願いたします。

- ① 選手の海外渡航について 適 ・ 不適 (いずれかに○)  
 ② スポーツ選手としての大会参加 適 ・ 不適 (いずれかに○)

上記についてのコメント

(上記①②について、ご判断された理由等をご記入ください)

\_\_\_\_\_ 年 月 日 医療機関名・住所・電話番号

医師名: \_\_\_\_\_ 印

※ 本調査用紙・診断書は、公益財団法人日本体育協会作成の国体参加選手のメディカルチェック用診断用紙の一部を障がい者用に改良して使用しております。(2013年9月13日現在)

【別紙1】

選手・聴覚障害者スタッフ記入

基本健康調査用紙\*別紙：コミュニケーションについて

※この用紙は「基本健康調査用紙」と一緒に「全日本ろうあ連盟スポーツ委員会」へ提出してください。

選手氏名： \_\_\_\_\_ 性別：男・女  
 生年月日：昭和・平成 \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日 年齢： \_\_\_\_\_歳

(1)あなたは普段、聞こえる人に自分の話したい内容をどんな方法で伝えますか。  
 手話 筆談 音声 複数の方法 ( と )

その他の方法 ( )

(2)あなたは普段、(手話のできない)聞こえる人から話しかけられる内容を、どんな方法で理解していますか  
 筆談 口の形 音声 複数の方法 ( と )

その他の方法 ( )

(3)あなたは病院で診療を受けるときに、手話通訳を利用していますか。  
 いつも利用する 状況によっては利用する 利用しない

(4)あなたは「自分の病気」や「体調」について医師と話すと、手話通訳に居てほしいですか。  
 いて欲しい どちらでもいい 状況による いてほしくない

(5)あなたは医師が話す重要な点については紙にメモして欲しいですか。  
 メモを渡してほしい メモは必要ない 自分でメモをしたい

(6)あなたは、診療を受けるときに、手話通訳や筆談の他に、どのような配慮を希望しますか。自由に書いてください。

例) マスクを外してほしい(口を見せてほしい)、途中で確認を入れてほしいなど

(6)あなたは高熱や嘔吐、めまいなどで具合がとても悪いときに、どんな方法で話しかけで欲しいですか。

手話 筆談 音声 複数の方法 ( と )

その他の方法 ( )

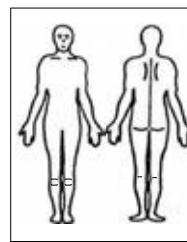
\* この質問用紙は「第8回アジア太平洋ろう者競技大会(於台湾・桃園)」にあたり、一般財団法人全日本ろうあ連盟スポーツ委員会が作成しました。

第8回アジア大会(台湾)

記入日：平成 \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日

氏名： \_\_\_\_\_ 種目： \_\_\_\_\_ 聴き取り：できる 少し できない  
 生年月日：S・H \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日 生まれ(男・女) 満 \_\_\_\_\_歳  
 身長： \_\_\_\_\_cm 体重： \_\_\_\_\_kg ベスト記録： \_\_\_\_\_  
 ポジション： \_\_\_\_\_ 得意種目・技： \_\_\_\_\_

○現在痛めている部位(気になる部位や違和感のある部位)を下記に記入してください)



○現在治療を受けていますか？(はい・いいえ)  
 通院している医療機関名、治療院名

① \_\_\_\_\_  
 ② \_\_\_\_\_  
 ③ \_\_\_\_\_

いつから症状がありましたか？

①平成 \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日～( )  
 ②平成 \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日～( )  
 ③平成 \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日～( )

現在の症状(下枠より)・原因(下枠より)・治療内容(下枠より)

① \_\_\_\_\_ ① \_\_\_\_\_  
 ② \_\_\_\_\_ ② \_\_\_\_\_  
 ③ \_\_\_\_\_ ③ \_\_\_\_\_

症状	A 何もなくても痛い	B さわると痛い	C 動かすと痛い	D 歩くと痛い	E 走ると痛い
	F ジャンプすると痛い	G 伸ばすと痛い	H 曲げると痛い	I ひねると痛い	J 泳ぐと痛い
	K 投げると痛い	L 眠ると痛い	M ズキッと鋭い痛み	N ズーンと鈍い痛み	O 腫っている
	P 重だるい	Q 腫れている	R 違和感がある	S つまっている	T 熱を持っている
	U しびれがある	V 出血している			
原因	ア 人と接触した	イ 急に痛くなった	ウ 徐々に痛くなった	エ ぶつけた	オ つまづいた
	カ ひねった	キ 伸ばした	ク 蹴った	ケ 走った	コ ジャンプした
	サ 投げた	シ 泳いだ	ス 転んだ	セ ずぶった	
治療	1 マッサージ	2 電気治療	3 温熱治療	4 冷却療法	5 ストレッチ
	6 筋力強化	7 有酸素運動			

○過去の主な怪我、病気、生まれつきの障害、手術など (特になし・ある場合は！)  
 特になし・ある場合は⇒( )

○現在服用している薬、サプリメント(薬の種類や服用状況)

特になし・ある場合は⇒( )

○アレルギーの有無(食べ物、薬物、化学物質、環境など)

特になし・ある場合は⇒( )

○女性の方への質問です。月経は定期的ですか？(はい・いいえの方は！)

□婦人科に受診していますか？(はい・いいえ) (服薬している薬名： \_\_\_\_\_)

□月経頻度は？( \_\_\_\_\_日周期 もしくは \_\_\_\_\_回/日・週・月・4)

医療班サイン： \_\_\_\_\_

※この用紙に記載の個人情報、個人情報保護方針に基づき保管を徹底いたします。



平成27年度 競技力向上事業・加盟競技団体選手強化体制整備事業  
**第8回アジア太平洋ろう者競技大会 本部報告書**

---

発行日：2016年1月25日

発行：一般財団法人全日本ろうあ連盟

〒162-0801 東京都新宿区山吹町130 SKビル8階

TEL 03-3268-8847 FAX 03-3267-3445

ホームページ <http://www.jfd.or.jp/>

Eメール [jfd-sc@jfd.or.jp](mailto:jfd-sc@jfd.or.jp)

編集：一般財団法人全日本ろうあ連盟スポーツ委員会

編集協力：日本聴覚障害者陸上競技協会・日本ろう者バドミントン協会・特定非営利活動法人日本デフバスケットボール協会・日本ろう者ボウリング連合・日本ろう者自転車競技協会・一般社団法人日本ろう者サッカー協会・日本ろう者武道連合・日本ろう者水泳協会・一般社団法人日本ろう者卓球協会・日本ろう者テニス協会

印刷：日本印刷株式会社

